２．伝承地域調査

（１）目的

道内のアイヌ文化の伝承地域について、文化財としての希少性や特異性のほか、観光コンテンツとしての可能性や課題を整理し、民族共生象徴空間を核とした周遊を促進するための連携方策を提案する。また、伝承拠点地域については、周遊促進や受入体制強化のための展開イメージを提案する。

（２）調査対象地の選定と調査内容

上記の定義に基づき、アイヌ文化に関する資源（文化財､展示施設､伝承団体等）を有し、道内アイヌ文化の歴史や広がりを示す場所、文化遺産の展示・解説施設や伝統芸能などを公開、活用する施設が所在する自治体（伝承地域）を、４つのエリア（道央、道南、道北、道東）ごとに調査対象地に選定した（表 2-1､2-2）。

調査は、調査対象の現地を確認するとともに、伝承地域の担当部署（教育委員会・観光部局など）や文化遺産の伝承者などから現状等を聴取し、観光素材として今後どのような活用可能性があるのかを考察し、整理した。

本調査の実施に当たり、以下のように、伝承地域、伝承拠点地域等の定義を行った。

●伝承地域とは

本業務でいうアイヌ文化の“伝承地域”とは、「北海道のアイヌ文化にかかる地名・伝承景観・遺跡が残る土地や、文化遺産を展示する博物館・民族資料館等、伝統芸能や技術を保存継承して公開している団体等が所在する地域」をいう。

●伝承拠点地域とは

伝承拠点地域とは、「伝承地域の中で、極めて重要な文化遺産や特徴的な文化遺産がある地域、文化遺産が集積している地域で、かつ、伝統的なアイヌ文化を伝承する団体※等が活動している地域」とする。

●資源区分とは

伝承地域におけるアイヌ文化資源を、大きく次の３つに整理した。

①場所：遺跡（集落跡、チャシ跡、地名伝承地等）、景観（名勝ピﾘｶノカ、重要文化的景観等）
②もの：伝承品、出土品、これらを展示する博物館、資料館、展示室等
③人：アイヌ文化の伝承者、重要無形民俗文化財アイヌ古式舞踊、伝統工芸等

※伝承団体を擁する伝承地域（自治体）
重要無形民俗文化財のアイヌ古式舞踊は、白老町、平取町、新ひだか町、旭川市、浦河町、帯広市、釧路市、札幌市、弟子屈町、白糠町、千歳市、むかわ町、日高町、新冠町、様似町の 15 自治体に伝承団体が所在するが、本調査ではこのうち白糠町までの 10 自治体を対象とした。

表 2-1 調査対象 1/2

				伝承地域	アイヌ文化資源 （展示施設、伝承地、伝承団体等）の名称	伝承区分/資源の内容
道央	石狩	1	1	札幌市	札幌市アイヌ文化交流センター （サッポロピリカコタン）	もの・人/展示施設・伝統工芸・重要無形民俗文化財アイヌ古式舞踊
			2	札幌市	北海道博物館	もの/展示施設・伝承品・出土品
		2	3	江別市	北海道立埋蔵文化財センター	もの/展示施設・重要文化財美々8遺跡出土品
		3	4	石狩市	名勝ピンネタイオルシペ＝黄金山	場所/名勝ピリカノカ
	胆振	4	5	豊浦町	名勝カムイチャシ（カムイチャシ史蹟公園）	場所/名勝ピリカノカ
		5	6	室蘭市	名勝絵鞆半島外海岸 （えともはんとうそとかいがん）	場所/名勝ピリカノカ
		6	7	登別市	銀のしずく記念館	もの/展示施設・伝承者
			8	登別市	アフンルパル	場所/地名伝承地
		7	9	白老町	アヨロ海岸（名称ピリカノカ候補地）	場所/チャシ跡、地名伝承地
			10	白老町	民族共生象徴空間(ウポポイ) 国立アイヌ民族博物館	もの・人/展示施設、伝承品・重要無形民俗文化財アイヌ古式舞踊
		8	11	厚真町	軽舞遺跡調査整理事務所（旧軽舞小学校）	もの/展示施設・出土品・伝承品
	日高	9	12	平取町	二風谷アイヌ文化博物館	もの・人/展示施設・伝承品・重要無形民俗文化財アイヌ古式舞踊
			13	平取町	アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観	場所/重要文化的景観
			14	平取町	名勝オキクルミのチャシ及びムイノカ	場所/名勝ピリカノカ
			15	平取町	名勝ポロシリ（幌尻岳）	場所/名勝ピリカノカ
			16	平取町	二風谷工芸館/二風谷民芸組合	もの・人/展示施設・伝統工芸
		10	17	新ひだか町	新ひだか町アイヌ民俗資料館	もの/展示施設・伝承品
			18	新ひだか町	史跡シベチャリ川流域チャシ跡群	場所/チャシ跡
		11	19	浦河町	浦河アイヌ文化保存会	人/重要無形民俗文化財アイヌ古式舞踊
		12	20	えりも町	名勝オンネエンルム（襟裳岬）	場所/名勝ピリカノカ
道南	渡島	13	21	函館市	函館市北方民族資料館	もの/展示施設・伝承品
			22	函館市	史跡志海苔館跡	場所/館跡
		14	23	長万部町	シャクシャイン古戦場跡碑	場所/伝承地
		15	24	八雲町	八雲町木彫り熊資料館	もの/展示施設・伝承品
	檜山	16	25	上ノ国町	史跡上之国館跡（勝山館跡）	場所・もの/遺跡・展示施設・重要文化財北海道上之国勝山館跡出土品

表 2- 2 調査対象 2/2

				伝承地域	アイヌ文化に関する文化財/ 資源(展示施設、伝承地、伝承団体等)の名称	伝承区分/資源の内容
道北	上川	17	26	旭川市	川村カ子トアイヌ記念館	もの・人/展示施設・重要無形民俗文化財アイヌ古式舞踊
			27	旭川市	神居古潭	場所/地名伝承地
			28	旭川市	旭川市博物館	もの/展示施設・伝承品・出土品
		18	29	名寄市	北国博物館	もの/展示施設・伝承品
			30	名寄市	名勝クトゥンヌプリ(九度山)	場所/名勝ピリカノカ
		19	31	美深町	恩根内テッシ	場所/地名伝承地
	宗谷	20	32	稚内市	稚内市北方記念館	もの/展示施設・伝承品・出土品
			33	稚内市	稚内市樺太記念館	もの/展示施設・伝承品
		21	34	枝幸町	オホーツクミュージアムえさし	もの/展示施設・伝承品・出土品
		22	35	枝幸町・ 浜頓別町	名勝カムイエトゥ(神威岬)	場所/名勝ピリカノカ
道東	釧路	23	36	弟子屈町	屈斜路コタンアイヌ民俗資料館	もの・人/展示施設・伝承品
		24	37	釧路市	阿寒湖アイヌシアターイコロ	もの・人/展示施設・伝承品・重要無形民俗文化財アイヌ古式舞踊
			38	釧路市 (弟子屈町・標茶町・釧路町)	史跡釧路川流域チャシ跡群	場所/チャシ跡
			39	釧路市	釧路市立博物館	もの/展示施設・伝承品・出土品
		25	40	白糠町	アイヌ文化活動施設ウレシパチセ	もの・人/展示施設・伝承品・重要無形民俗文化財アイヌ古式舞踊
	根室	26	41	根室市	史跡根室半島チャシ跡群(ヲンネモトチャシ跡)	場所/チャシ跡
		27	42	別海町	加賀家文書館	もの/展示施設・伝承品・出土品
		28	43	標津町	史跡　標津遺跡群伊茶仁カリカリウス遺跡(ポー川史跡自然公園)	場所・もの/集落跡・チャシ跡・伝承品・出土品
			44	標津町	町指定史跡　タブ山チャシ跡	場所/チャシ跡
		29	45	羅臼町	羅臼町郷土資料館	もの/展示施設・伝承品・出土品・重要文化財松法川右岸遺跡出土品
	十勝	30	46	帯広市	帯広百年記念館 アイヌ民族文化情報センター　リウカ	もの/展示施設・伝承品・出土品
			47	帯広市	帯広カムイトウウポポ保存会/ 帯広市生活館(ふくろうの館)	もの・人/展示施設・伝承品・重要無形民俗文化財アイヌ古式舞踊
		31	48	帯広市・ 中札内村	名勝ポロシリ　(十勝幌尻岳)	場所/名勝ピリカノカ
	オホーツク	32	49	網走市	北海道立北方民族博物館	もの/展示施設・伝承品・出土品
			50	網走市	網走市立郷土博物館	場所・もの/チャシ跡・展示施設・伝承品・出土品
			51	網走市	史跡最寄貝塚	場所・もの/遺跡・展示施設・出土品
		33	52	北見市	史跡常呂遺跡	場所・もの/遺跡・展示施設・出土品
		34	53	遠軽町	名勝インカルシ(瞰望岩)	場所/名勝ピリカノカ

（３）対象とした伝承地域の状況

今回の調査では、34 の伝承地域（自治体）の 53 資源について現地調査、ヒアリング等の調査を行い、以下の項目について整理した。コンテンツや広域連携に向けた可能性や課題は、アイヌ文化資源や地域の観光情報等の調査結果から、調査者が考察整理したものである。

表 2- 3　調査項目

資源の概要	・施設の規模や施設内容、文化財等の指定経緯と内容、構成要素等 ・環境概要等、伝承等の説 ・伝承団体の場合は、活動内容やこれまでの実績、構成員数等
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・施設の利用時間、休館日、料金等 ・案内情報や近隣の関係施設等 ・案内ガイドや解説サービス、音声ガイド等のツールの整備状況
体験プログラム	・一般の方が利用できるプログラム、料金等
利用状況	・年間利用者数、年間の利用傾向、利用者内訳の特徴等
PR、誘客の方法	・情報発信の方法、誘客のための活動等
交通アクセス	・最寄り駅やバス停からの時間や距離、目印となる地点からの距離等
各種協力体制によるメニュー提供	・地域のアイヌ協会や伝承団体、観光協会、ボランティアガイド等の連携、協力体制等
多言語対応	・看板や解説表示、パンフレットや HP 等の多言語整備状況
観光コンテンツとしての可能性、課題：	・一般利用やツアー造成で利用できるコンテンツ、ストーリーを組む視点や素材など。一般利用やツアー造成における課題等。
広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題：	・他地域と連携するきかっけ、内容、テーマ等。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
札幌市	札幌市アイヌ文化交流センター （サッポロピリカコタン）	もの・人/ 展示施設・伝統工芸・ 重要無形民俗文化財

屋外展示（歴史の里：チセ等）

屋内展示

資源の概要	・札幌のアイヌ民族が製作したアイヌ伝統民具等の文化資料の展示体験施設。 屋内展示施設：鉄筋コンクリート2階建/187 人収容のホールあり 屋外展示：イタオマチプ（外洋船）、チセ（家）、ヘペレセツ（小熊の檻）、 プ（足高倉）、ル（便所） 池、イユタプ（精米用具）、アイヌ民族ゆかりの植物
文化財/資源の 提供の方法、利用形態	・利用時間：9：00～17：00 ・休館日：月曜、月末の火曜、祝日、年末年始（12 月 29 日から1月3日） ・入館無料/展示室閲覧料：一般 200 円、高校生 100 円、中学生以下無料 ・展示物は手に取って触ってみることができる。 ・映像、ムックリ等の楽器の音、デジタル紙芝居、クイズやブドウヅルの輪投げ等 ・案内ガイドは可能な範囲で職員が対応 ・イベント、小中高校生団体体験プログラム、修学旅行による団体見学の時など、交流ホールでアイヌ民族の方々による講話、古式舞踊の披露、アイヌ伝統楽器（ムックリ、トンコリ）の演奏、遊び体験、製作体験などを実施
体験プログラム	アイヌ文化体験講座（H29 年度）　計 2 回 アイヌ文様刺繍（コースター）　6 時間　3,000 円 木彫り（ペンダント）　6 時間　3,000 円 アイヌ文様刺繍(チヂリのタペストリー：講師製作の見本)　（平成 30 年度実施講座） （札幌市アイヌ文化交流センターHP http://www.city.sapporo.jp/shimin/pirka-kotan/jp/kouza/images/cimg3365.jpg より）
各種協力体制によるメ	・イベント、体験プログラム、体験講座など各種事業の実施、一部施設の維持管理

ニュー提供	について、札幌アイヌ協会に対して業務委託している。
多言語対応	パンフレット(英語、中国語、韓国語対応） 解説は未対応
利用状況	・年間(H28 年度)51,165 人、展示室観覧者数 19,754 人 ・年間(H29 年度)53,006 人、展示室観覧者数 18,891 人 ・小中高校生団体体験プログラム　受講校数　64 校/4,263 人（H28 年度） ・小中高校生団体体験プログラム　受講校数　56 校/3,999 人（H29 年度） ・イベント 6 回/1,628 人（H28 年度） （古式舞踊披露、輪踊り体験、遊び体験、製作体験） ・イベント 6 回/1,212 人（H29 年度） （古式舞踊披露、輪踊り体験、遊び体験、製作体験）
PR、誘客の方法	・札幌観光協会HP、定山渓観光協会HPに掲載
交通アクセス	・札幌駅から定山渓温泉　路線バス　往復 15－22 本程度/日 バス停「小金湯」から徒歩約 6 分 札幌市中心部から車で約 40 分

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・札幌のアイヌの方々が製作した伝統民具等を直接触れて見学できるほか、アイヌの方々による体験プログラムや各種イベントが数多く開催されており、教育旅行の目的となる。

・大都市である札幌市近郊という立地を生かし、豊平川や八剣山、周辺の国立公園の自然環境を活用した一般向けのガイドツアーの開発等も望まれる。

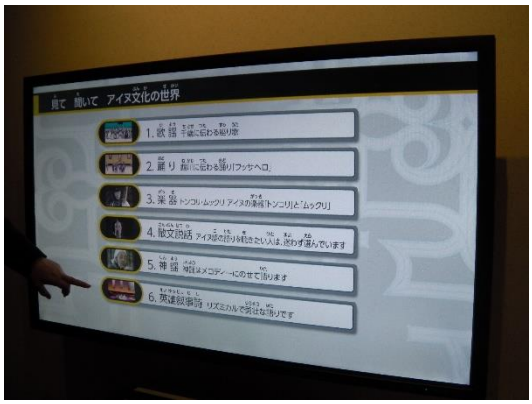
広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題：

・札幌市では、1 日 10 万人以上の歩行者が通行する地下鉄南北線さっぽろ駅コンコースにおいて、アイヌ文化を発信する空間整備を進めており、平成 31 年 3 月オープン予定である。ここでは、サッポロピリカコタンや札幌市内、道内のアイヌ文化施設等の情報発信の機能を担い、札幌市民のほか、道内外、海外からの観光客への周知効果が期待される。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
札幌市	北海道博物館	もの/展示施設・伝承品・出土品

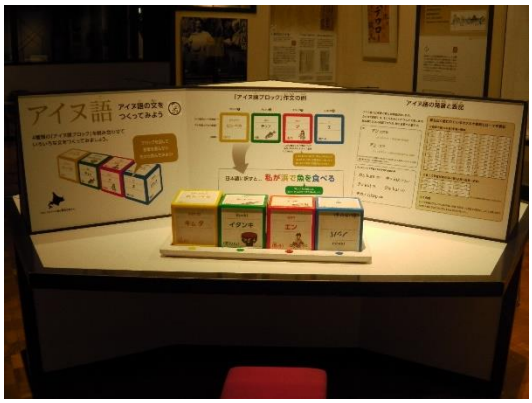
博物館外観

「アイヌ文化の世界」の展示エリア

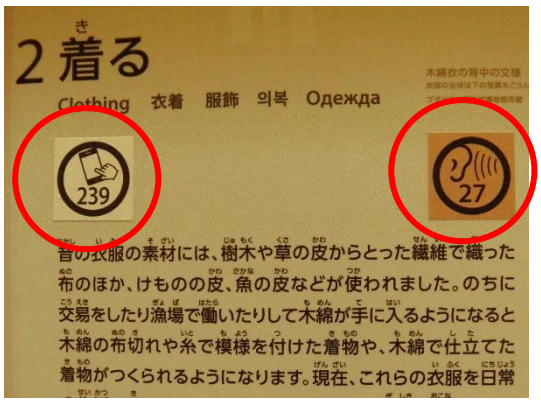


「見て 聞いて アイヌ文化の世界」ｺｰﾅｰの映像メニュー画面

「ウコウㇷ゚」（アイヌの歌の形式の１つ）が聞けるｺｰﾅｰ



ブロックを並べてアイヌ語のいろいろな短文をつくることができる「アイヌ語ブロック」



解説ガイド表示
左）スマホアプリによるガイド　右）音声ガイド

資源の概要	「平成27年4月に北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターが統合して「北海道博物館」として開設された。周辺に北海道開拓の村、自然ふれあい交流館の展示施設がある。 ・総合展示室　1・2階。「アイヌ文化の世界」を含む5つのテーマの常設の展示。 ・特別展示室　特別展や企画テーマ展などを開催。 ・はっけん広場　いわゆる体験学習室。「ホンモノにふれる」「道具をつかう」「何かをつくる」などの体験ができる。

	・講堂（120 人収容）／図書室／休憩ラウンジ（100 名利用可能）／記念ホール（式典開催）／ミュージアムカフェ（約 20 席、オリジナルグッズ・お土産販売）」・
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・利用時間：9:30～17:00(5-9 月)　9:30-16:30(10-4 月) ・休館日：毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は直後の平日）、臨時休館あり 年末年始 12 月 29 日～1 月 3 日 ・入館料：一般 600 円、大学生・高校生 300 円、 中学生以下・65 歳以上・障害のある方　無料 年間パスポート：1,100 円(総合展示室) 北海道開拓の村との共通チケット　一般 1200 円　大学生・高校生 700 円 ・セルフガイド設備： ・音声解説器（日本語・英語）貸出　1 台 280 円 ・スマートホン用アプリ「ポケット学芸員」を導入（日本語ほか 5 言語、課金なし） ・中テーマ単位（館内 16 か所、アイヌ文化関連 4 か所）に「多言語解説ボード」を配置 ・解説ガイド： ・毎日1回解説員による総合展示の通覧解説（「ハイライトツアー：14　時～（所要時間約 1 時間）」事前予約不要、無料） ・総合展示室の 1 階 2 階に解説員を配置。祝日は学芸員・研究職員も配置。 ・団体客を対象に、学芸員・研究職員が展示の見どころなどを 25 分間で解説する講義形式のグループレクチャーを実施。事前予約制、無料。 ・解説員： 博物館職員が対応している。
体験プログラム	・「はっけん広場」に、手にとって体験できるキットを常備。 （アイヌ民族の伝統文化に関するものあり(例）衣服を着てみる等：団体利用中は使用制限あり）。 ・学校団体を対象に予約制で解説員の指導・進行による体験学習プログラム（約 20 分、アイヌ民族の伝統文化に関するものあり）
各種協力体制によるメニュー提供	・札幌市内の観光施設と合わせて巡ることができるチケット販売 「さっぽろセレクト」　札幌もいわ山ロープウェイ、大倉山展望台リフト、さっぽろ羊ヶ丘展望台、さっぽろテレビ塔展望台、北海道開拓の村、札幌オリンピックミュージアム、北海道博物館から 3 施設選ぶチケット
多言語対応	・総合展示の解説文や資料キャプションは日本語、英語を併記 ・以下の表記はいずれも、英語、簡体字、繁体字、韓国語、ロシア語対応 総合展示室には、展示テーマごとに、多言語化した解説ボードを設置 総合展示内容を解説する音声ガイド（展示解説器） スマートフォンを使った多言語展示サービス（ミュージアムアプリ「ポケット学芸員」） HP、パンフレットの多言語化
利用状況	・入館者数：平成 27 年度 149,046 人　28 年度 108,374 人 29 年度 80,519 人 平成 28 年度外国人 4,417 人　29 年度 4,836 人 ・入館者数の傾向：9 月は団体、学校利用が多い　7-8 月は夏休み期間となり一般客が多い。冬（12-2 月）は閑散期。 ・グループレクチャー：「総合展示のみどころ」をテーマとするものが半数以上を占め、総合展示室の5つのテーマのうち、「アイヌ文化の世界」の開催が最も多い。 平成 27 年度 254 件のうち「アイヌ文化の世界」28 件 平成 28 年度 173 件のうち 22 件　平成 29 年度 137 件のうち 27 件
PR、誘客の方法	・HP、札幌観光協会HP
交通アクセス	・地下鉄新さっぽろ駅・JR新札幌駅から路線バスで約 15 分「北海道博物館」下車 平日　往き 8 本　帰り 12 本　　土日祝　往き 8 本　帰り 10 本 博物館前駐車場　約 100 台無料

観光コンテンツとしての可能性、課題 （コンテンツ要素） 　北海道を代表する総合博物館であり、北海道全体の歴史や自然・文化と並行してアイヌ文化を学ぶことができる。総合展示の5つのテーマのうち第 2 テーマ「アイヌ文化の世界」は、「現在を知る」「伝統を学ぶ」「ことばを聴く」「歩みをたどる」の 4 つのパートで展示が構成されており、特にアイヌ語については、物語や歌を聴いたり、アイヌ語のブロックで遊びながら単語や文法にふれることができる。アイヌの口承文芸をもとにしたアニメも見ることができるなど、楽しみながら学ぶことができる。 （課題） 外国人来館者は過去 2 年間では増加傾向にあるが、全体の来館者数は、リニューアルオープン時に大きく伸びたものの、翌年以降減少傾向をたどっている。H30 年度は前年度比でやや増加する見通しではあるものの、北海道の歴史文化観光の拠点施設として、道外の教育旅行やインバウンドへの周知、集客が課題となっている。
広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題： 　北海道観光の一大拠点である札幌に立地し、また北海道博物館がアイヌ文化の研究、展示の拠点施設でもあることから、道内各地のアイヌ文化施設や団体等の情報発信拠点（道内のどこへ行けば何があるかを知ることができる）としての機能も期待される。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
江別市	北海道立埋蔵文化財センター	もの/展示施設・重要文化財美々8 遺跡出土品

展示室内

重要文化財　北海道美々8 遺跡出土品

資源の概要	・埋蔵文化財の保護、保存・活用、さらに普及啓発を図ることを目的に、平成 11 年 4 月 1 日に設置された。アイヌ文化に関連したものとして、重要文化財の美々8 遺跡の出土品を展示している。 【美々8 遺跡】 千歳市新千歳空港建設予定地内から 1991 年に発掘された擦文～近世アイヌ期の遺跡。美々川沿いの低湿地にあり、江戸時代には東蝦夷地と西蝦夷地をむすぶ〈ユウフツ越〉の道筋にあたる。松浦武四郎の記録と一致する舟着場の遺構や建物跡とともに、舟の櫂、木幣、捧酒箸、花矢、漆塗椀など優れた木製品や金属製品が出土している。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・利用時間：9：30～16：30、 ・休館日：毎週月曜日、一部の祝日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日） ・入館料：無料　駐車場あり（大型バス駐車可） ・解説ガイド： 10 人以上で対応（事前予約要）。当日でも可能であればスタッフが対応。
体験プログラム	・体験学習：「縄文工房」（受付時間　9：30～15：30）　無料 ・縄文時代に関する体験プログラム（勾玉体験、ミニ土器づくり、火おこし等） ・団体利用（10 名以上）は事前予約必要。材料費実費負担依頼の場合あり。
各種協力体制によるメニュー提供	特になし。
多言語対応	HP の利用案内は、英語、中国語、ロシア語、韓国語の翻訳文を掲載
利用状況	・年間利用者数　約 1 万 1 千～1 万 2 千人程度　　夏から秋の利用が多い。 ・学校の授業やデイサービスで利用されることが多い。 ・縄文関係のツアーや九州からの団体ツアーに利用されることもある。
PR、誘客の方法	・HP
交通アクセス	・JR大麻駅から徒歩 20 分（1.5km）　・新さっぽろ駅バスターミナルから路線バスあり

観光コンテンツとしての可能性、課題

・考古学分野でのアイヌ文化資料、特に重要文化財となっている江戸時代のアイヌ文化の出土品を見学することができる。文字のないアイヌ民族の歴史を理解する上で、考古学の調査結果から、様々な推測・推理が可能であり、歴史や考古学の関心層に対する需要が考えられる。

広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題：

・出土品が発掘された遺跡地域との連携により、見学ツアー等の企画が考えられる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
石狩市	名勝ピンネタイオルシペ ＝黄金山	場所/名勝ピリカノカ

遠景

ピンネタイオルシペ（黄金山）

資源の概要	・石狩市浜益区にある標高 739.1 m の山で、アイヌ語で「ピンネ タイオルシペ」あるいは「タヨロウシヘ」と呼ばれ、その意味は「木原にそびえる男山」「水木の多い山」とされている。 ・この山は、英雄ユカラ（叙事詩）「クトネシリカ（虎杖丸（いたどりまる）の曲）」などに出てくるポイヤウンペの住む「高杯を立たてたような山」の候補の一つとして全国的に有名。クトネシリカの内容は、山の上の砦に住むポイヤウンペが育ち、石狩河口まで空を飛んで黄金のラッコを捕え、日本海沿岸のアイヌや海の向こうの民族と戦った末、美しい娘と結婚するといったもので、壮大なスケールの物語である。
文化財/資源の 提供の方法、利用形態	・名勝指定の解説板や看板等は特になく、登山道が整備されている。 ・頂上からは暑寒別連峰はもとより遠くは積丹半島まで一望でき、初心者でも好適の登山コースとして紹介されている。駐車場（10 台程度 無料） ・登山道の管理は、石狩市が地元山岳会（こがね山岳会）へ委託している。 例年 5 月下旬に山開き
体験プログラム	・なし
利用状況	・未集計
PR、誘客の方法	・石狩市HPに登山道として紹介
交通アクセス	・札幌駅前ターミナルから「特急はぼろ号（増毛経由便）」で、「柏木」下車。滝川方面へ国道 451 号を約6キロメートル東進。実田橋を渡ったところで国道を左折。兼平沢林道へ入り、登山口まで約5km。未舗装の林道であるため、普通乗用車及びマイクロバスでのみ通行可能。

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・ユカラ伝承地としてストーリーを組み立てることができる。登山道が整備されており、ユカラ伝承地をハイキングで楽しむことができる。

・ユカラについての紹介や解説など、アイヌに関する展示、解説板がない。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題：

・道内の名勝ピリカノカとの連携によるツアーが考えられる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
豊浦町	名勝カムイチャシ （カムイチャシ史蹟公園）	場所/名勝ピリカノカ

カムイチャシ遠景

史跡公園入口

資源の概要	・「カムイチャシ」は神の砦を意味し、アイヌ文化期の遺跡および景勝地、洞爺湖有珠山ジオパークジオサイトである。 ・ほぼ垂直の断崖となっており、人間の近寄りがたいチャシとしての意味もあったと考えられている。平成 23(2011)年 2 月にピリカノカに指定された（5.8ha）。 ・屋外展示施設として、トイレ、あずまや、散策路、解説板（英語表示）が整備されている。冬期間の除雪なし。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・教育委員会主催講座やツアーの開催あり。 ・ガイド案内は現在ないが、今後ガイドを育成する予定
体験プログラム	なし
各種協力体制によるメニュー提供	・アイヌの方々による伝統儀式（カムイノミ・イチャルパ）の披露（年1回、同地区内の別会場で実施） ・学芸員の資料提供やガイドあり。
利用状況	・個人利用については未集計。団体利用（対応数）：3 団体、約 120 人（H29 年度）
PR、誘客の方法	・教育委員会主催講座は町内広報誌にチラシ折込、町 HP にて周知 ・洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会と連携した事業、イベント周知依頼
交通アクセス	・JR 大岸駅から徒歩 20 分 ・JR 豊浦駅から豊浦町営バス国道入口行きに乗車「カムイチャシ公園前」下車（平日のみ 4 本）

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・アイヌ文化の遺跡であり、史跡公園として、遺跡内を散策することができる。また、およそ300万年前の海底火山の活動の痕跡を見ることができ、有珠山や北海道駒ケ岳、絵鞆半島など、噴火湾を一望できる。

・およそ 300 万年前の海底火山の活動でできた岬に、レブンゲコタンの入り口として造られたチャシ。かつて、松浦武四郎や英国人旅行家イザベラ・バードなどが訪れ、地図や手記にカムイチャシやレブンゲコタンの様子を記している。これらをストーリーとして、ツアーを組み立てることが可能。

・ガイドがいなくても概要を知ることができるような、解説看板の内容の充実や、スマホアプリ等の解説ツール導入検討が望まれる。

広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題：

・他のピリカノカ地域と連携することにより、ピリカノカをめぐるツアーが考えられる。また、洞爺湖有珠山世界ジオパークとの連携協力により、外国人旅行者への発信も重要と考えられる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
室蘭市	名勝絵鞆半島外海岸(えともはんとうそとかいがん)	場所/名勝ピリカノカ

ハルカラモイ
(ハルカルモイ)
(食料・とる・入江)

増市浜
(マスイチセ)
(海猫・家)

地球岬
(ポロチケウエ)
(親である・断崖)

トッカリショ浜
(トゥカリショ)
(アザラシ・岩)

資源の概要	・神話伝承、アイヌの人々の生活のあり方を示す地名が、由来となる自然環境と共に今もよく残されている「生きた地名の地」として平成 24(2012)年にピリカノカに指定された。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・「ハルカラモイ」「増市浜」「地球岬」「トッカリショ浜」の各地に解説看板あり。 ・ガイド:室蘭市民観光ボランティアガイド協議会 地球岬(GW 及び夏休み期間 3 人体制) 大型客船入港時 臨時案内 3 人 観光協会での観光ガイド(4 月～10 月末まで 土日祝 1 人) ガイド育成(観光おもてなし人材育成研修会、外国人受入研修会、各 H29 年度実施) ガイド実績:のべ 154 日(回)(H29 年度) ・パンフレットの多言語化(英語、中国語、韓国語)
体験プログラム	・外海岸クルージング (録音テープで説明を流しているが、アイヌ文化に特化したツアーではない) ・地球岬遊覧 : 90 分 4,000 円 4～11月 2便/日 催行5人より ・ｲﾙｶ･ｸｼﾞﾗｳｫｯﾁﾝｸﾞ:150分 6,000 円 6～8月 2便/日 催行5人より ・ナイトクルージング : 60 分 3,000 円 4～11月 1 便/日 催行5人より
利用状況	・地球岬 観光入込み 約 185,000 人(H29 年度) ・外海岸クルージング(H29 年度) 地球岬遊覧:600 人 ｲﾙｶ･ｸｼﾞﾗｳｫｯﾁﾝｸﾞ:750 人 ナイトクルージング:2,800 人
PR、誘客の方法	室蘭市、室蘭観光協会のHP、Twitter
交通アクセス等	ハルカラモイ・増市浜 「増市通」バス停下車 徒歩 10～15 分 地球岬・トッカリショ浜 「地球岬団地」バス停下車 徒歩 15 分

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・すでに観光地として定着している地球岬とセットで、他の 3 地区をまわるルートが考えられる。

・野生動物ウォッチングとともにアイヌ語地名紹介の組合せが可能。

広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題:

・絵鞆半島外海岸は民族共生象徴空間から最も近いピリカノカ指定地であり、道内の他のピリカノカ地域との連携によるツアー企画が考えられる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
登別市	銀のしずく記念館	もの/展示施設・伝承者

記念館入口

2 階展示室

資源の概要	・登別市出身でアイヌ語を初めて日本語とローマ字で記録し、『アイヌ神謡集』を書いた知里幸恵に関する資料が展示されている。 ・木造2階建て　178 ㎡　。　博物館建物の隣に森があり、散策路が整備されている。 ・地元や全国からの募金で建てられた、民設民営の施設。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・利用時間:9:30～16:30(入館は 16:00 まで) ・入館料:大人 500 円、市民 250 円、高校生 200 円、小中学生 100 円 ・休館日:火曜日(祝祭日を除く)、冬季(12 月 20 日～2 月末日) ・案内ガイドは日程調整により可能　料金　無料 ・登別市周辺の「知里幸恵、真志保ゆかりの地マップ」があり、知里幸恵の墓や石碑、アイヌ伝承地をめぐることができる。
体験プログラム	なし
利用状況	・年間利用者数 1,884 人(H29 年)
PR、誘客の方法	・HP、フェイスブック
交通アクセス等	・JR登別駅より徒歩 15 分 ・都市間高速バス「登別」停留所より徒歩 10 分 ・大型車両の進入不可　大型バスでの来場は要連絡

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・アイヌ文化の世界観を今に伝えるテキスト(アイヌ神謡集)を残した知里幸恵や知里真志保、その関係者をめぐる旅や「アイヌ神謡集」にまつわるアイヌ文学探訪、アイヌ語地名散策などのツアーが考えられる。

・「アイヌ神謡集」を知らない人向けの案内、解説などの検討、取組が必要。

広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題:

・知里幸恵、弟の知里真志保にまつわる地域、博物館や資料館との連携により、資料や情報の収集、新たな企画ツアー等が考えられる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
登別市	アフンルパル	場所/地名伝承地

アフンルパル

解説看板

資源の概要	・アイヌの死後の世界観などを知ることができる遺跡。登別市ユカラ伝承者金成マツが残したアフンルパルについての物語もある。 ・アフンルパルとは「あの世の入口」といわれ、北海道にあるものの多くは横穴であるが、このアフンルパルは人為的に掘られたと思われる竪穴。 ・名称や付随して語り伝えられている伝説や信仰から、祭祀関係の遺跡と考えられているが、本来何であったかは分かっていない。 ・規模：50m×50mほど ・アイヌ語で名づけられた地形と物語が現在も残されている。 ・毎年 6 月に笹刈りを実施しているが、草に覆われて、現地で識別することが困難な時期もある。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・屋外にあるもので、特に利用時間はなし。 ・現地までの散策路の看板あり。 ・駐車場なし。周辺の富浦墓地の駐車場利用。
体験プログラム	なし
利用状況	未集計
PR、誘客の方法	・現状では特に行っていない。
交通アクセス等	・JR登別駅より約 2.5km

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・白老町虎杖浜には横型のアフンルパロがあり、登別のフンベ山や隣町の白老町虎杖浜地区のチャシなどと合わせたガイドツアーの提供も可能。

広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題：

・道内のアイヌ語で名づけられた地形と物語が現在も残されているアイヌ文化伝承地を、その種類別に（例えば、アフンルパルだけ）めぐるツアーなども考えられる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
白老町	アヨロ海岸（名勝ピリカノカ候補地）	場所/チャシ跡、地名伝承地

アヨロ海岸周辺図　　（「白老アイヌ語地名マップ」（白老観光協会）より抜粋、加工）

資源の概要	・ポンアヨロ川河口の左岸側（元アヨロ鼻灯台周辺）はカムイエカシチャシ、右岸側はカムイミンタルチャシがある。カムイエカシチャシの東側はオソロコツ（尻・跡）と言われるアイヌの伝承地となっている。 ・周辺の登別漁港東側に、アフンルパロ（入口）、あの世への入口と言われる、アイヌ伝承地の岩穴がある。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・ポンアヨロ川河口は、駐車場や散策路等の整備はない。 ・アフンルパロは、現地に解説板が設置されている。
体験プログラム	なし
各種協力体制によるメニュー提供	・教育委員会主催等の講習会等で年に数回利用される。 ・地元で元アヨロ鼻灯台周辺環境保全と活用を考えるワークショップが開催され、今後の利活用について協議されている。
多言語対応	なし
利用状況	・未集計　現状では、虎杖浜温泉利用者や地元の方も訪れている。
PR、誘客の方法	観光協会のHPで紹介
交通アクセス	白老駅から約 20km 国道 36 号より海岸へ約 800m 最寄りバス停なし

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・灯台（元）地点から太平洋を望む眺望と、チャシやアイヌ伝承地が点在し、魅力的な観光スポットとなる。
・展望地点の確保や、駐車場、散策路、解説板等の整備が必要となる。
・海からの眺望も魅力資源であり、周辺港からのクルージングも考えられる。
・町内には仙台藩白老陣屋資料館があり、アイヌとの交流の歴史も展示されている。合わせて見学することで眺望による視覚的な感覚と歴史等の知識との両面から、理解を深めることができる。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題：

・他地域のチャシ跡、アイヌ伝承地との連携。
・他のピリカノカ地域との連携によるツアー企画等が考えられる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
白老町	ウポポイ(民族共生象徴空間) (2020 年 4 月 24 日オープン)	もの・人/ 展示施設、伝承品・重要無形民俗文化財アイヌ古式舞踊

ウポポイ(民族共生象徴空間)の主な施設

資源の概要	・主要施設として、アイヌを主題とする日本初の国立博物館「国立アイヌ民族博物館」や、アイヌ文化を五感で体験できるフィールドミュージアム「国立民族共生公園」が整備される。 ・国立アイヌ民族博物館は、アイヌの人々の視点で語る「ことば」「世界(振興)」「くらし」「歴史」「しごと」「交流」の「6つのテーマ」に沿って、過去から現代までを一体的に紹介。また、6つの展示テーマに沿ったアイテムを手に取ってみたり、遊んでみたりすることで、体感的にアイヌ文化を学ぶことができる「子ども展示」も整備される。 ・国立民族共生公園には、主要施設として、アイヌ古式舞踊やムックリ等の伝統楽器の演奏などを来園者が一体となって楽しむことができる「体験交流ホール」(席数約 500)、団体のお客様に向けた体験プログラムを実施する「体験学習館」(最大 400 名受入可能)、チセ(家)を再現し、伝統的儀式などを体験できる「伝統的コタン」、伝統工芸品の製作風景を見学したり来園者が制作体験できる「工房」が整備される。
体験プログラム	・主に、以下の体験プログラムの実施が想定されている。 アイヌ古式舞踊・伝統楽器演奏公演、ムックリ製作体験、 アイヌ文様刺繍・彫刻体験、アイヌ伝統料理試食体験、学芸員講話　など
各種協力体制によるメニュー提供	・国の委託を受けて、公益財団法人アイヌ民族文化財団により運営される。
多言語対応	・アイヌ語、英語をはじめとする多言語表示
利用状況	・年間来場者数 100 万人を目標としている。
PR、誘客の方法	・国、関係地方公共団体(北海道、白老町など)及び民間団体等が、その垣根を越えて連携し、国内外における PR イベントの開催、ウポポイ開設 PR アンバサダーによる広報活動、メディアや SNS、コンセプトムービー等を多様な媒体を活用した広報を展開しているほか、教育旅行誘致に係る説明会にも参加している。

交通アクセス	・札幌から高速道路で約 90 分(約 95 km)、JR 特急で約 60 分 ・新千歳空港から高速道路で約 40 分(約 50 km)、JR 特急で約 30 分 ・JR 白老駅から徒歩約 15 分(約 1 km)、高速道路白老 I.C.から約 6 分(約 4.2 km)
観光コンテンツとしての可能性、課題: ・先住民族アイヌの過去と現在を紹介し未来へとつなぐ国家プロジェクトとして整備されるエリアであり、国際的にもまた国内的にも学校教育を初めとした多様な層の利用が期待され、そのための受入れが求められる。	
広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題: ・アイヌ文化の重要拠点であり、道内各地のアイヌ文化資源(展示施設や史跡、伝承品、地域のアイヌ文化を体験できる所等)の情報を入手できる拠点としての機能も期待される。	

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
厚真町	軽舞遺跡調査整理事務所 （旧軽舞小学校）	もの/展示施設・出土品・伝承品

整理事務所外観

館内（地震の影響により一部修復、ほぼ完了）

資源の概要	アイヌ文化期の出土品を展示 施設内容：展示室、特別収蔵庫
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・資料展示のみ ・案内ガイドは、可能な範囲で職員が対応。
体験プログラム	なし
多言語対応	なし
利用状況	・年間利用者数（月別の傾向、年間推移） 積極的に公開を公表しているわけではないが、平成 29 年度：約 300 人 平成 30 年度：8 月まで約 240 人　の見学希望者が来訪 ・利用者内訳：平成 30 年は 8 月までで道外客が約 50 人来訪した。 ・利用形態：　教員研修や企業研修が比較的多い。年間の講演依頼数は5件程度ある(60～90 分)。
PR、誘客の方法	なし
交通アクセス	・厚真町市街から約9km　日高自動車道厚真インターから約 10km

観光コンテンツとしての可能性、課題

・中世アイヌ文化期の実像を示す出土品は他に類を見ない。従来のアイヌ歴史文化で語られることが少なかった豊かな交易、精神儀礼文化を、出土品から具体的に理解することができる。

（左）13 世紀の若い女性の首にかけられていた北方系資料の鉄製コイル状装飾品、本州産の和鏡等

（右）シャクシャインの戦い（1669 年）と同時期の集落跡で発見された高級酒器の銅製銚子（本州からの交易品）

・このほか、シャクシャインの戦い以前の豊かな交易民であるアイヌの実像や精神儀礼の成立を伝える貴重な資料群があり、白老や平取ではとりあげられないアイヌの歴史の一面を見て知ることができる。

・現状では、遺跡整理事務所の扱いで、2020 年度以降に郷土資料館として稼働する予定。施設活用に向けた広報活動が課題。

広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題：

・旧石器時代以降近現代に至るまでの豊富な資料があり、多様なニーズに楽しく学びを提供できる。課題としては、観光未開発地であり、ハード･ソフト面での整備を要し、白老、平取のアイヌ文化資源との連携の確立。少人数学習型資源（大型バス1台）。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
平取町	二風谷アイヌ文化博物館	もの・人/展示施設・伝承品・重要無形民俗文化財 アイヌ古式舞踊

博物館入口

丸木舟の屋外展示

復元したチセ等

QR コードによる多言語音声対応

資源の概要	・重要有形民俗文化財「北海道二風谷および周辺地域のアイヌ生活用具コレクション」などを展示。 ・周辺に復元したチセが数棟ある。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・開館時間：9：00～16：30 ・休館日：12 月 16 日～1 月 15 日、11 月 16 日～12 月 15 日の毎週月曜日 ・1 月 16 日～4 月 15 日の毎週月曜日 ・見学料金：大人 400 円、小中学生 150 円
体験プログラム	・団体来館者を主な対象として実施 講話：20,000 円（30 分～1 時間） ムックリ制作（木彫）：1,000 円/人　（30 分～1 時間） コースター制作（木彫・刺繍）：1,300～2,000 円/人（90 分） 舞踊：基本料金 30,000 円～（30 分～40 分） ムックリ演奏：700～1,200 円（30 分程度） 木彫・刺繍は 2 名から受付（要事前申し込み）
各種協力体制によるメニュー提供	・日常的な展示説明は学芸員及び博物館職員が対応。 ・体験プログラムでの連携先は以下のとおり。 講話：アイヌ伝統文化の語り部（平取町民）を博物館から紹介 制作体験：二風谷民芸組合 アイヌ古式舞踊・ムックリ演奏：二風谷観光振興組合

	アイヌ料理弁当は二風谷のランチハウス Bee に依頼 ・アイヌの伝統儀式（チプサンケ：アイヌの舟おろし）のイベントで、体験プログラムを実施している。
多言語対応	・HPは英語併記、パンフレットは英語、韓国語、簡体字、音声ガイドは英語、韓国語、中国語
利用状況	・来館者数：年間 19,515 人（内、団体受入れ 8,643 人 44%）（H28 年度） ・団体ツアーは道内客が多い。教育旅行や研修旅行のほか、冬季は旅行会社が募集したツアーも来ている。 ・平成 28 年度体験プログラム実績： 講話/4,638 人、舞踊/1,051 人　木彫コースター/242 人　刺繍コースター/21 人 ムックリ演奏/238 人、ムックリ制作/271 人
PR、誘客の方法	・HP掲載、教育旅行商談会への参加
交通アクセス	・苫小牧駅から【路線バス】 静内行きに乗車、富川市街で日高行きに乗換え、資料館前下車 徒歩5分 1日2往復 ・札幌から【都市間バス直行】（高速ひだか号） 1 日 1 往復

観光コンテンツとしての可能性、課題

（可能性）

・アイヌ関係機関と連携して体験プログラムを提供しており、受入れ体制が整備されている。

・博物館外の利用推進として、文化的景観解説シートの販売も実施している。

・多言語対応によりインバウンド観光客受入れが、ある程度整備されている。

（課題）

・個人旅行者に対応したメニューとして、温泉施設や民宿とタイアップしたメニューの開発が望まれる。

・博物館ではなくアイヌ文化情報センターが観光案内所として機能し、文化的景観解説シートの配布など、アイヌの文化資源、景観等について情報発信や案内をしてはどうか。

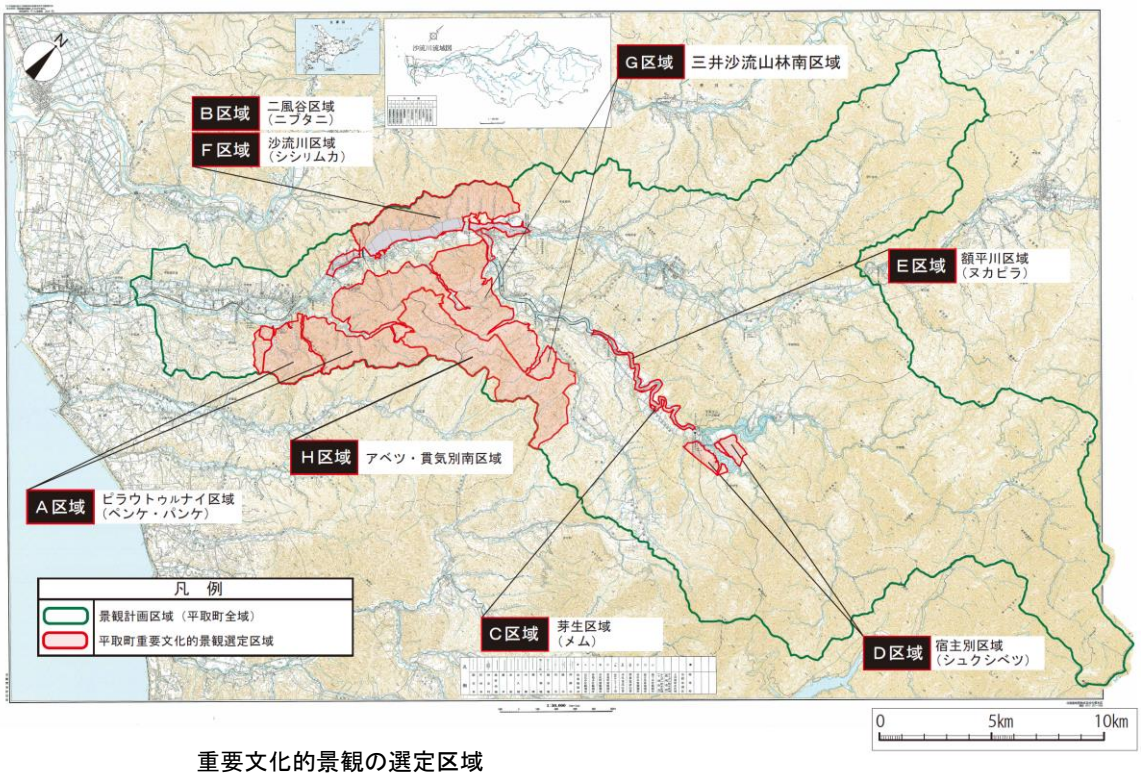
広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題：

・名勝ピリカノカ指定地等との連携。

・ユカラ（道東ではサコロペ：英雄叙事詩）の伝承地との連携。

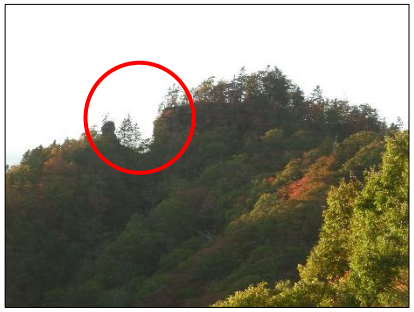
伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
平取町	アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観	場所/重要文化的景観*

アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観　区域図



重要文化的景観の選定区域

		区域名	文化的景観の名称	所在地	面積(ha)
第一次	A	ピラウトゥルナイ区域（ペンケ・パンケ）	北海道日高地方における里山的景観	字川向、字小平	1928.8
	B	二風谷区域（ニブタニ）	アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観	字二風谷	1302.3
	C	芽生区域（メム）	峡谷との対照が際だつ戦後開拓地の景観	字芽生	10.2
	D	宿主別区域（シュクシュベツ）	牧野・牧野林とスズラン群生地の景観	字芽生	310.5
	E	額平川区域（ヌカピラ）	自然景観とアイヌの伝統、開拓の営為が織りなす多文化な河川景観	総主別川河口～額平川・アブシ川合流点付近の河川敷地	220.8
	F	沙流川区域（シシリムカ）	自然景観とアイヌの伝統、開拓の営為が織りなす多文化な河川景観	にぶたに湖上流端から新平取大橋	608.5
第二次	G	三井沙流山林南区域	IWORを基層としたアイヌ文化伝承及び人々の営みを支えてきた里山的景観	字小平、字二風谷、字荷負、字貫気別	3097.3
第三次	H	アベツ・貫気別南区域	アイヌの生活民具などの地域の文化と人々の暮らしを育み創造する森林景観	字小平、字二風谷、字貫気別	2365



アイヌ伝承地オプシヌプリ（穴があく山）

資源の概要	・アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観 これまでの林業の歴史が反映された森林景観とオプシヌプリなどのアイヌの伝承地があり、アイヌの人たちによる文化継承・振興の活動が活発な地区。 ・自然とアイヌの伝統、開拓の営為が織りなす多文化な河川景観 沙流川流域の多様な自然の恵みを受けて古くからアイヌ文化が形成され、開拓の営為による農村景観や軽種馬生産の牧場景観との重層が顕著な地区。 ・名勝ピリカノカに指定されているオキクルミのチャシ及びムイノカは、重要文化的景観の構成要素となっている。

<table>
<tr><td></td><td>

伝説・伝承・歴史スポットの一部 「北海道平取町「文化的景観」見どころMAP」より
</td></tr>
<tr><td>文化財/資源の
提供の方法、利用形態</td><td>・町が設置した視点場からの展望。視点場に解説板あり（重要文化的景観 6 か所、名勝ピリカノカ 2 か所、計 8 か所設置）。
地点マップとセットになった解説シートを博物館で販売しており、個人でも見てまわることができるようになっている。</td></tr>
<tr><td>体験プログラム</td><td>・なし</td></tr>
<tr><td>各種協力体制による
メニュー提供</td><td>・アイヌ儀式もイベントとして開催し、景観の一部として見られるようにしている
（沙流川にチプ（丸木舟）を浮かべる「アイヌの舟下ろし」（チプサンケ）等）</td></tr>
<tr><td>多言語対応</td><td>部分的に対応（英語表記）</td></tr>
<tr><td>利用状況</td><td>・未集計</td></tr>
<tr><td>PR、誘客の方法</td><td>・二風谷アイヌ文化博物館のHPでマップコードと共に紹介</td></tr>
<tr><td>交通アクセス</td><td>・自家用車またはレンタカーによる移動。</td></tr>
<tr><td colspan="2">観光コンテンツとしての可能性、課題
・風光明媚な視点場をめぐりながら、アイヌの伝説・伝承を知ることができる。
・ただし、説明がないとわかりにくいため、町案内を兼ねた景観資源の説明拠点が必要。</td></tr>
<tr><td colspan="2">広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題：
・町全体がアイヌ文化にふれることができるエリアであることを周知する。</td></tr>
</table>

＊重要文化的景観

2005 年 4 月の文化財保護法改正により新たに設けられた文化財（新類型）。
文化的景観とは、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」
景観法に定める景観計画区域又は景観地区にある文化的景観のうち、文化財として特に重要な価値を有するものを、都道府県又は市町村の申出に基づき、「重要文化的景観」として国が選定する。北海道では平取町が唯一。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
平取町	名勝オキクルミのチャシ及びムイノカ	場所/名勝ピリカノカ

視点場への誘導看板

オキクルミのチャシ(左)とムイノカ(右)

地点MAP

景観解説シート

資源の概要	・アイヌに生活文化を伝えたとされるオキクルミの居城と伝えられるチャシと、その妻が残したと伝えられる箕の形をした崖。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・町が設置した視点場からの展望。視点場に解説板あり。 地点マップとセットになった解説シートを博物館で販売しており(博物館HPからダウンロード可能)、個人でも見てまわれるようになっている。
体験プログラム	・なし
多言語対応	解説板(英語表示)
利用状況	・未集計
PR、誘客の方法	・アイヌ文化博物館のHPでマップコードと共に紹介
交通アクセス	平取町市街から約 15km

観光コンテンツとしての可能性、課題

・アイヌの伝承とそれを表す地形。

・解説がないとわかりにくいため、ガイドツアーの開催やガイドの育成が必要。

広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題:

・他地域の名勝ピリカノカ指定地等との連携。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
平取町	名勝ポロシリ(幌尻岳)	場所/名勝ピリカノカ

視点場周辺

視点場に設置されている解説板

解説板写真の中の幌別岳(ポロシリ)

景観解説シート

資源の概要	・日高アイヌのチノミシリ(祈りの対象となった山(ポロ・シリ(大きな・山)=幌別岳)
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・町が設置した視点場からの展望。視点場に解説板あり。 地点マップとセットになった解説シートを博物館で販売しており(博物館HPからダウンロード可能)、個人でも見てまわれるようになっている。
体験プログラム	・なし
多言語対応	解説板(英語表示)
利用状況	・未集計
PR、誘客の方法	・アイヌ文化博物館のHPでマップコードと共に紹介
交通アクセス	・平取町市街から約 22km

観光コンテンツとしての可能性、課題

・アイヌの伝承とそれを表す地形。

・百名山のひとつで、上級者向けの登山対象地としても人気がある。

・説明がないとわかりにくいため、ガイドツアーの開催やガイドの育成。

広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題:

・他地域の名勝ピリカノカ指定地等との連携。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
平取町	二風谷工芸館/二風谷民芸組合	もの・人/展示施設・伝統工芸

二風谷工芸館(平取町アイヌ文化情報センター)

工芸館内の販売品の展示

資源の概要	・伝統工芸品の製作・販売 「二風谷イタ」(盆)、「二風谷アットウシ」(樹皮から作った糸を使って織った反物)が経済産業省の「伝統的工芸品」に道内で初めて指定された。 (伝統的工芸品指定条件:①主として日常生活の用に供されるものであること。②その製造過程の主要部分が手工業的であること。③伝統的な技術又は技法により製造されるものであること。④伝統的に使用されてきた原材料が主たる原材料として用いられ、製造されるものであること。⑤一定の地域において少なくない数の者がその製造を行い、又はその製造に従事しているものであること。この 5 つの要件に該当すること)
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・開館時間:9:00～17:00 ・休館日:年末年始(12/31～1/5)
体験プログラム	・伝統工芸品の制作体験 (要予約) ムックリ制作 (木彫)、コースター制作 (木彫・刺繍)
各種協力体制によるメニュー提供	・博物館と連携して実施。 ・修学旅行は博物館利用が主になっており、滞在時間は短い。 ・修学旅行生向けに、絵葉書など単価の安いものを販売するようにした。
多言語対応	HP(「二風谷アイヌ匠の道」)は部分的に英語併記。
利用状況	・来館者数:年間 13,000 人程度 ・6 月、9 月の修学旅行の利用が多い。トイレだけの利用者もカウントされている。 ・欧米系外国人が多いという印象がある。 ・タクシーやバスを乗り継いでやってくる外国人が散見される。 ・最近は海外への出品も多くなってきている。2020 年のオリパラの影響で、全般に注文量が増えてきており、対応しきれない現状がある。2020 年以降が重要。
PR、誘客の方法	HP(匠の道)を見て来訪する人も多い。
交通アクセス	・苫小牧駅から【路線バス】 静内行きに乗り、富川市街で日高行きに乗換え、資料館前下車 徒歩 5 分 1 日 2 往復 ・札幌から【都市間バス直行】(高速ひだか号) 1 日 1 往復

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・制作体験をしながら工芸品の購入が可能。

・アイヌ文化にふれることと、工芸品購入とのつながりをどのようにつくるかが課題。

・アートとしての工芸品を見学できるような専用空間(展示スペース)が望まれる。

広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題:

・道内の木彫り作家や工芸作家との連携による共同展示会等開催の検討。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
新ひだか町	新ひだか町アイヌ民俗資料館	もの/展示施設・伝承品

施設内展示

資源の概要	・アイヌの歴史や文化に特化した展示施設 開館期間・時間:5月～11月/9:00～17:00　休館日:月曜日　入館無料 ・史跡シベチャリ川(静内川)流域チャシ跡のある真歌(まうた)公園に隣接する。 ・屋外展示施設としてアイヌに関係する野草園も整備されている。
文化財/資源の 提供の方法、利用形態	・常設のガイド案内や映像展示はなし ・事前に連絡があれば、学芸員による解説は可能。 ・史跡シベチャリ川(静内川)流域チャシ跡群と一体的に利用される。
体験プログラム	なし
各種協力体制による メニュー提供	・隣接地で新ひだかアイヌ協会がイチャルパ(アイヌの伝統儀礼・先祖供養)等を実施。 ・隣接地で新ひだかアイヌ協会によりシャクシャイン法要祭が営まれ、道内、全国から関係者や関心をもつ人々が参列する。
多言語対応	・なし
利用状況	・年間　約3，000人
PR、誘客の方法	・新ひだか町 HP で紹介
交通アクセス	札幌駅前バスターミナルから高速バス「ペガサス」号乗車、静内バスターミナル下車し約3km

観光コンテンツとしての可能性、要素:

・アイヌ民族の英傑であるシャクシャインの拠点(史跡シベチャリチャシ跡)とこの資料館とセットで見学できる。
・シャクシャインやオニビシの人物像や、両者の戦いの詳細などをストーリー化しての展開が可能。
・チャシ跡とセットで資料館のPR、施設展示の案内ガイド(育成)。

広域周遊、連携に向けた可能性、課題:

・シャクシャインと戦っていたオニビシ側のチャシ跡(日高町門別)、松前藩との戦いの場であった長万部町の国縫古戦場跡、新冠町のピポクチャシ跡など、シャクシャインの戦い関連地域との連携。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
新ひだか町	史跡シベチャリ川(静内川)流域チャシ跡群	場所/チャシ跡

シベチャリチャシ跡(手前は静内川)

シベチャリチャシ跡からの眺望

資源の概要	**シャクシャインの居城とされるチャシ跡** ・チャシは当初、アイヌ同士の戦いのための砦だった。静内川河口を拠点としたシャクシャイン、上流を拠点としたオニビシらは激しい戦いを繰り広げ、その結果シベチャリ川流域を制圧したシャクシャインが、より広い地域のアイヌを束ねることに成功した。戦いの標的はアイヌ同士から対松前藩に変わり、近世最大のアイヌ民族の蜂起といわれる寛文 9(1669)年の「シャクシャインの戦い」が起こった。しかしシャクシャインの死で戦いは松前藩の勝利で終わり、シャクシャインのシベチャリチャシは焼き払われた。この戦い以降、アイヌと和人の関係性は大きく変わっていった。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・史跡周辺は、真歌(まうた)公園として整備され、展望台、説明板などが設置されている。隣接して、アイヌ民俗資料館、シャクシャイン記念館がある。
体験プログラム	なし
各種協力体制によるメニュー提供	・隣接地で新ひだかアイヌ協会がイチャルパ(アイヌの伝統儀礼・先祖供養)等を実施 ・毎年、新ひだかアイヌ協会によりシャクシャイン法要祭が営まれ、道内、全国から関係者や関心をもつ人々が参列する。
多言語対応	なし
利用状況	・未集計
PR、誘客の方法	・新ひだか町 HP で紹介
交通アクセス	札幌駅前バスターミナルから高速バス「ペガサス」号乗車、静内バスターミナル下車し約5km

観光コンテンツとしての可能性、要素:

・アイヌ民族の英傑であるシャクシャインの拠点(史跡シベチャリチャシ跡)は、アイヌの歴史を知る人々には関心が高い。
・チャシ跡の展望台から、静内川河口等、周辺地形を一望できる。
・シャクシャインやオニビシの人物像や、両者の戦いの詳細など
・アイヌ文化資源であるチャシ跡のPR、博物館との連携
・HP 等への解説資料の掲載などの情報提供の充実

広域周遊、連携に向けた可能性、課題:

・シャクシャインと戦っていたオニビシ側のチャシ跡(日高町門別)、松前藩との戦いの場であった長万部町の国縫古戦場跡、新冠町のピポクチャシ跡など、シャクシャインの戦い関連地域との連携

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
浦河町	浦河アイヌ文化保存会	人/重要無形民俗文化財 アイヌ古式舞踊

コタンコロカムイ(フクロウが夜、村に来て村を守るという踊り)　馬方ウポポ(鈴を付けた馬が戯れてる様子の踊り)

資源の概要	・古式舞踊のほか、衣食の手作業など生活全般の伝承活動を行っている。 ・他の地域や団体等から要請されて、各種伝承文化の講習をすることがあり、静内小学校では 100 人近い生徒を教えたこともあった。 ・浦河アイヌ協会とは別に、文化伝承活動を行っている。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・町の交流事業等において、古式舞踊やムックリ演奏等を披露している。
体験プログラム	・アイヌ文化の体験プログラム化に取り組んでいる。 左上から ・ストーンペイント ・アイヌ刺繍のテイッシュケース ・お守りストラップ
各種協力体制によるメニュー提供	・浦河観光協会が 2 年前に一般社団法人として法人化され、伝承文化のプログラムを組み込んだツアーの商品化に取り組んでいる。

観光コンテンツとしての可能性、要素

・伝統料理についてはたくさんの伝承があり、当会の特徴でもある。年 3 回の祈願祭(カムイノミ)では、アイヌの伝統料理のみを提供している。伝統料理の提供や料理の体験プログラムは、道内でも実施例が少ないため、当会の特徴的なプログラムとして、今後の取り組みが注目される。

・当団体は、衣･食や年間行事(日本のお盆や正月等に相当する祭儀)等の生活全般の文化を継承しようと取り組んでいる。継承するうえで、後継者育成は緊急で重要な課題であり、子供たちや若い方たちに対しては、儀式や手仕事など継承の機会を意識的につくり、教えていく必要がある。

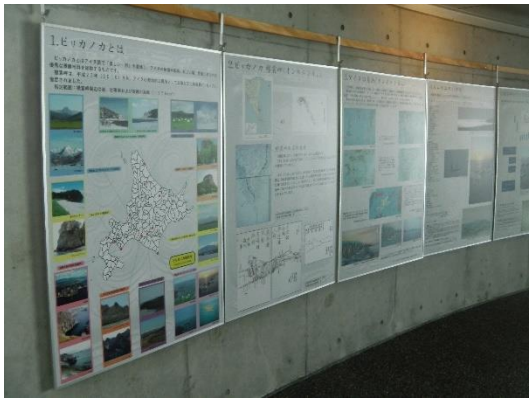
広域周遊、連携に向けた可能性、課題

・当団体の特徴である伝統的料理を軸として、近隣地域の伝承団体と交流し、連携を図り、地域特有の古式舞踊や手仕事の文化を着実に伝承していくことが期待される。

・アイヌ文化の特色･独自性を生かした、行政との協働による地域文化の発展に向けた取り組みも望まれる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
えりも町	名勝オンネエンルム(襟裳岬)	場所/名勝ピリカノカ

オンネエンルム(襟裳岬)



屋内展望解説施設「風の館」 ピリカノカの解説パネル

資源の概要	・「襟裳岬」はアイヌ語のオンネエンルムが語源であり、「オンネ」は大きい、「エンルム」は突き出たところ(岬)を意味する。また、「エルム」はネズミを意味し、松浦武四郎の著書にはネズミが伏せたような突き出たところ、またはネズミの尾のようである、とも記されている。岩礁に生えるコンブは「神様のひげ」としてアイヌは採ることはなく、沖を通過するときは、イナウを削り、御神酒と共に捧げ、航海の安全を祈った。 ・襟裳岬(襟裳岬岩礁帯と周辺海域断崖)は平成 22(2010)年 8 月に国指定名勝の一つとして指定された。 ・「襟裳岬」は日高山脈襟裳国定公園にあり、展望地、散策路が整備されている。また、展示解説屋内展望施設「風の館」が整備されているが、国定公園内にあるため、周囲の景観や植生に考慮し、すぐ隣にあるえりも岬灯台の明かりを遮らない形で設計されている。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	＜風の館＞ ・開館時間:9:00～18:00(5～8 月)、9:00～17:00(3、4 月、9～11 月) 荒天時は臨時休館する場合がある。 ・休館:冬季 12～2 月 1 月 1 日は「初日の出」のため 5:00～8:00 開館。 ・入館料:おとな 300 円 小中高生:200 円
体験プログラム	・アイヌ文化に関するものはなし
多言語対応	・ピリカノカのパンフレット、DVD は多言語化されている(英、仏、韓、中(簡体字、繁体字)) ・「えりも岬 オンネエンルム ピリカノカ」HP 多言語化(英、仏、韓、中(簡体字、繁体字))
利用状況	参考データ: (H29 年度: 襟裳岬観光客数 172,400 人 風の館入館者数 29,210 人)
PR、誘客の方法	・えりも町公式フェイスブック、えりも町公式観光サイト
交通アクセス	・路線バス:様似町またはえりも町市街地から往復 6 本/日 ・高速乗合バス:札幌えりも間(道央道・日高道経由:4 時間) 1 往復/日。

観光コンテンツとしての可能性、要素:

・国定公園として従来から観光地であった襟裳岬が名勝ピリカノカに指定され、観光資源としての魅力がさらに広がったが、アイヌ文化に関する解説や資料等が限られている中、風の館のピリカノカの展示解説は、アイヌ文化を紹介する重要な役割を果たしている。

・松浦武四郎の地名に関する記載から、松浦武四郎がたどったルートや江戸時代につくられた猿留山道(さるるさんどう)に結びつけて、これらを巡る企画が考えられる。

広域周遊、連携に向けた可能性、課題:

・他のピリカノカ地域と連携し、道内のピリカノカを巡るツアー等が考えられる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
函館市	函館市北方民族資料館	もの/展示施設・伝承品

資料館外観(函館市 HP より)

資料館内

資源の概要	・市立函館博物館が所蔵している、アイヌ民族やウイルタ民族などをはじめとした貴重な民族資料を収蔵・展示している。 ・規模:展示室等 1・2 階 613.82 ㎡(鉄筋コンクリート造地下 1 階付陸屋根 4 階建)
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・利用時間:9:00～19:00(4-10 月) 9:00-17:00(11-3 月) ・休館日:年末年始 12 月 31 日～1 月 3 日館内整理等のため臨時休業することがある ・入館料:一般 300 円、学生・生徒・児童 150 円、 ・パソコンの音声ガイドが3カ所にある(日本語のみ) ・ボランティアガイドつくしの会(個人客への対応)、函館観光ボランティアガイド(一會の会)にも協力していただくことがある。
体験プログラム	・ムックリ製作・演奏体験(1 週間前予約 90 分 500 円) ・北方民族文様の切り紙細工体験(随時受付 15 分 無料 団体は事前予約が必要) ・定期的に以下のような講座を開催している。 「アイヌ文様木彫り教室」「刺しゅう教室」「ミュージアム・トーク」等
各種協力体制によるメニュー提供	・各種受入れツアー例 JR東日本四季島のツアー「TRAIN SUITE 四季島」 (四季島 HP(https://www.jreast.co.jp/shiki-shima/course34.html)より) 「アイヌ衣装のレプリカ着用体験」 四季島行程(HPより抜粋) 函館駅 6:20 頃着 料亭「冨茂登」朝食 アイヌ文化公演と北方民族資料館の見学/函館市電の貸切運行・函館朝市自由散策 函館駅 12:30 頃発

多言語対応	パンフレットは英語併記　展示解説冊子（英文/コピー） 英文リーフレットは、現在作成中。
利用状況	・年間利用者数 25,518 人(H27 年度)　30,348 人(H28 年度)　29,061 人(H29 年度) ・利用者内訳（道内外、国内外） 来館者の1～2割が海外の方と思われ、クルーズ船の来港で近年増加傾向にある。 平成 29 年度の月別では、8、9 月が約 5,000 人と最も多くなり、11 月から 2 月の期間は閑散期となり、8、9 月の二割を下回る。 5～9 月は地元小学生の授業での研修と、東北地方を中心とした小中学生の修学旅行が中心。G・W は一般観光客の利用者が多数を占める。 なお、青森市内の小中学生の入館料は無料となっている。 平成 29 年度からは JR 東日本四季島の団体客が定期的に来館している（運行は4月より11月まで） ・土産品のコーナーで資料本や伝統工芸作家による民芸品を販売している。 館内の土産品売り場 館内の土産品売り場
PR、誘客の方法	・HP及び函館市HP ・冬季に次年度に向けて修学旅行対象校や旅行会社へ案内を送付
交通アクセス	市電：「函館駅前」電停から「函館どつく」行に乗車し、「末広町」電停で下車。 「末広町」電停から徒歩 1 分（所要時間約 15 分） 専用駐車場はなし。

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・函館市の主要観光資源である重要伝統的建造物群保存地区内にあり、元町観光の一拠点となっている。
・アイヌ民族を中心とした北方民族の文化資料を見学できる。
・アイヌ文化の体験（ムックリ、文様の切紙や刺しゅう）ができ、さらに、ボランティアガイドを配置しているので、案内を充実したものにすることが可能。
・地域とアイヌ文化との関係性がわかりにくい。

広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題：

・観光客が多く訪れる地域にあることから、函館周辺のアイヌ文化施設や史跡（志苔館跡）等の紹介、案内などの役割も期待される。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
函館市	史跡志苔館跡	場所/館跡

史跡志苔館跡の空撮写真(函館市 HP より)

続日本 100 名城のスタンプ

入口地点看板

館跡地

資源の概要	・1456 年(康正2)に起こったコシャマインの戦いで陥落した館跡。 「コシャマインの戦い」:志濃里の鍛冶屋村で、和人がアイヌを殺めたことにより、騒動が発生し、12 の館のうち 10 が陥落した。 ・規模:19,960 ㎡　　・利用時間:休館日:屋外展示で自由に見学可能 ・続日本 100 名城(平成 29(2017)年 4 月 6 日公益社団法人日本城郭協会認定)
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・展示/映像　屋外展示施設(トイレ、あずまや) ・散策路(解説看板)　あり
体験プログラム	なし
利用状況	未集計
PR、誘客の方法	・函館市のHPで紹介
交通アクセス	駐車場なし 函館駅前から「志海苔」停留所下車(約 35 分)。停留所から約 260m (湯の川温泉、函館空港に近い)

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・館跡が所在する志海苔町は、コシャマインの戦いの発端となったとされている地である。

・続日本 100 名城の選定を契機に、函館市担当部署へ週に 1-2 回ほど問合せがあることから、本州発ツアーの誘致などの取組が考えられる。

・解説がないとわかりにくいため、ガイドによる案内ツアーの開催が必要。。

広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題:

・コシャマインの戦いに関係する地域(道南十二館の地域:函館市・北斗市・木古内町・知内町・福島町・松前町・上ノ国町)との連携。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
長万部町	シャクシャイン古戦場跡碑	場所/伝承地

旧国縫小学校敷地内に設置された石碑

平成 28 年 10 月 28 日に除幕式が行われた石碑

資源の概要	・1669 年(寛文 9 年)シャクシャインの戦いで最大の激戦地となった国縫古戦場伝承地。 ・アイヌ民族の英傑シャクシャインが和人との不平等交易に抗して松前藩と激戦を交えた国縫川ほとりの旧国縫小学校敷地に、平成 28(2016)年に長万部町が石碑を設置した。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・一般の記念碑等と同じく、自由見学可能 ・冬期間除雪なし
体験プログラム	なし
利用状況	未集計
PR、誘客の方法	・看板等案内施設なし。 ・現状では、町HP観光サイトで掲載はしてないが、長万部文化紀行パンフレットに掲載(町HP教育委員会サイトに掲載)。
交通アクセス	・JR 国縫駅から約 500m　徒歩 6 分 ・JR 国縫駅は普通列車のみ停車。　上り下り各 6 本/日

観光コンテンツの可能性、課題:

・地元では七夕の頃にイチャルパ(先祖供養祭)が執り行われている。町名由来のアイヌ語「ウパシ・シャマンペ(雪・カレイ)」を意味する写万部山(標高　498.8m)、旭浜にコタンがあったこと、戦場となったであろう国縫川にサケが遡上しそれを狙う猛禽類も飛来する。これらのアイヌ文化と自然資源を結びつけたツアー企画が考えられる。野生動物との関連では、サケはアイヌの伝統的料理、猛禽類はアイヌの重要な交易品だったワシ羽と結びつけて、ストーリーを構成することができる。

・今後に向けて、案内看板の設置、解説資料の製作、発信が課題と考えられるが、アイヌに関するデータを現在作成中とのことであり、アイヌの文化資源(ストーリー素材)についてのリスト化はこれからの段階にある。

広域周遊、広域連携に向けた可能性・課題:

・新ひだか町等、シャクシャインの戦いに関連する地域との連携により、新ひだか町で毎年 9 月に開催されるシャクシャイン法要祭と結びつけた新たなツアーやイベント企画等が考えられる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
八雲町	八雲町木彫り熊資料館	もの/展示施設・伝承品

八雲町郷土資料館・八雲町木彫り熊資料館

資料館内の展示

（写真：八雲町教育委員会）

資源の概要	・昭和初期に北海道土産として広く知られていた木彫り熊は、昭和 30・40 年代の北海道の観光ブームで爆発的に売れ、観光土産品として定型化された。この木彫り熊は、八雲町に徳川農場をもっていた尾張徳川家の徳川義親公が八雲の農民に制作を奨励したことから始まった。 ・北海道第一号の木彫り熊とそのモデルとなったスイスの木彫り熊を含む民芸品、八雲で作られ続けてきた木彫り熊、ほかに旭川を中心として北海道内の木彫り熊を展示している。 ・八雲町郷土資料館に隣接して、2012 年に展示室として開設され、2014 年に資料館としてオープンした。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・開館時間等：9：00～16：30 ・休館日：毎週月曜日、祝日、年末年始 ・入館料　無料（郷土資料館ともに無料） ・事前に申し込みがあれば学芸員による説明対応可能。
体験プログラム	なし
利用状況	・年間利用者数：約 5,000 人 ・ユーラップ川に遡上するサケ、それを求めて飛来するオジロワシ（12－2 月頃）を目的とするネイチャーツアーの立寄り地点としても利用されている。
PR、誘客の方法	・八雲町のHPに掲載
交通アクセス	・道央自動車道JR八雲駅から約 700m　徒歩 8 分 ・八雲インターから 2.6km

観光コンテンツとしての可能性、課題

・木彫り熊の発祥の経緯や尾張徳川家との関係のほか、工芸アートとして「木彫り熊」を強調し、道内に点在するアイヌ作家との共同展示等が考えられる。
・ユーラップアイヌや落部アイヌなど、八雲町におけるアイヌ民族の資料は函館市立博物館や松前城資料館にあり地元に多く残っていないが、寄託を受けた尾張徳川家のアイヌ資料を今後展示していく方針。
・郷土資料館におけるアイヌ民族資料展示の充実。

広域周遊・広域連携に向けた可能性、課題

・アイヌ民族による木彫り熊製作が盛んな地域との連携や、共同イベント等の開催が考えられる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	伝承区分/資源の内容
上ノ国町	史跡上之国館跡(勝山館跡)	場所・もの/ 遺跡・展示施設・重要文化財北海道上之国勝山館跡出土品

ガイダンス施設内の 1/200 の勝山館復元模型

勝山館跡から天の川河口の日本海を望む

資源の概要	・松前氏の祖とされる武田信広が築城した山城。 ・武田信広は、1456 年(康正2)に起こったアイヌ民族と和人の戦いである「コシャマインの戦い」を収束させた。勝山館の裏手にある夷王山墳墓群の発掘調査で、和人とアイヌの墓が並んでみつかり、勝山館にアイヌ民族と和人が混住していたことが明らかになった。 ・公益財団法人日本城郭協会が主催する「続日本 100 名城」に選定された(平成 29 年 3 月)。 ・史跡に隣接してガイダンス施設、史跡をめぐる散策路、解説板が整備されている。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・開館時間:10:00～16:00 4 月第四土曜日～11 月第二日曜日 ・休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 冬季 11 月第二日曜日の翌日～4 月第四金曜日 ・入館料:大人 200 円 小中高生 100 円 ・ガイダンス施設では、復元模型や発掘された墓のレプリカのほか、映像解説やコンピュータグラッフィクスによる勝山館の復元も見られる。 ・案内ガイド:上ノ国観光協会(1名)、観光ガイド協会(8名) 1名 500 円、団体はガイド1名につき 2,000 円 ガイド育成については、ガイド協会のガイドが自主的に研修をおこなっている。 ・毎年 7 月にコシャマイン慰霊祭(アイヌの方々による祭祀)を開催
体験プログラム	なし
各種協力体制によるメニュー提供	・上ノ国町にはアイヌ協会の団体はない。上ノ国町観光協会と連携し、ガイドによる案内も実施している。
多言語対応	パンフレット(英語版)製作を予定している。英語の解説を設置。
利用状況	・年間利用者数(約 8 か月):約 1,500 人程度 ・町外、道外の来訪者が多くを占める。外国人来訪もある。
PR、誘客の方法	・上ノ国町のHPに掲載
交通アクセス	・木古内駅からの路線バス 1 日 6 本 上ノ国町市街地から約 4km ・JR 函館駅から約 84km

観光コンテンツとしての可能性、課題
・15 世紀の中世の時代に、アイヌ民族と和人が混住していた事実を示す場所は、この勝山館のみ。この事実からストーリーをつくることができる。 ・出土遺物の生産地からは、勝山館が東南アジアを含めた大きな交易圏の中に存在していたことがわかり、中国・朝鮮・沖縄・ベトナム・本州との関わりの中でストーリーをつくることができる。 ・ニシン番屋の原型と言われる、19 世紀前半の建物で重要文化財に指定されている「旧笹浪家」に伝わるアイヌ文化資料（サハリンアイヌが製作したと考えられるアイヌ民族の衣服：テタラペ、江戸時代にアイヌ民族が沿海州での交易で入手した蝦夷錦袱紗（ｴｿﾞﾆｼｷﾌｸｻ））も見学できる。 ・勝山館周辺に隣接する北海道で最も古い民家・寺院・神社である旧笹浪家住宅（国重文）、上國寺本堂（国重文）、上ノ國八幡宮（道指定）も見学できる。 ・解説板など、ガイドがいなくても概要を知ることができる解説ツールの充実が望まれる。 ・続 100 名城ツアーの誘致、ガイドの育成が求められる。
広域周遊、広域連携に向けた課題：
・コシャマインの戦いが繰り広げられた道南 12 館の地域（函館市、北斗市、木古内町、福島町、松前町）との連携によるツアーが考えられる。 ・厚真町の 12～14 世紀のアイヌ文化、上ノ国町の 15 世紀のアイヌと和人混住の歴史、道央・道東の 16 世紀以降のアイヌ文化を紹介するツアーの検討。 ・歴史的に津軽と秋田の安藤（東）氏とのつながりがあることから、本州との連携したツアーが考えられる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
旭川市	川村カ子トアイヌ記念館	もの・人/展示施設・重要無形民俗文化財アイヌ古式舞踊

川村カ子トアイヌ記念館外観

アイヌ資料展示

復元されたチセ

資源の概要	・大正 5(1916)年に開設した、アイヌ自らが運営する道内最古のアイヌ博物館。アイヌ文化の伝承を目的に、生活用具や数々の歴史資料を展示しており、チセと呼ばれる小屋も併設している。 ・川村家は上川アイヌの名家であるが、その祖先は上湧別から旭川に来たといわれ、その後の旭川のアイヌの人々の生活を知る貴重な資料が紹介されている。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・私設博物館及びチセの展示などによりアイヌ文化を伝承している。 ・開館時間:9:00～17:00 ・休館日:年中無休 ・見学料金:大人 500 円、中校生 400 円、小学生 300 円、小学生以下無料
体験プログラム	以下の体験プログラムがある。 ・ムックル製作体験　・ムックル演奏体験　・ししゅう体験 ・古式舞踊体験　・アイヌ模様切り絵　・アイヌ文化解説 ・アイヌ衣装を着ての記念撮影
多言語対応	展示の一部に英語表記あり。
利用状況	–
PR、誘客の方法	記念館HP、パンフレットで紹介
交通アクセス等	旭川電気軌道バス　アイヌ記念館前下車

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・アイヌ文化に関心のある人だけでなく一般の人が見ても、公立の博物館にはない興味をそそる展示がなされており、観光資源としての価値は高い。

・今後、館内において、アイヌ料理等の新たなサービスの提供により、観光施設の魅力は高まる可能性あり。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題:

・今後、旭川市博物館と連携を強化し多様な発信をすることで、アイヌ文化資源は旭川観光の重要な要素になる可能性がある。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	文化財/資源の種別
旭川市	神居古潭	場所/地名伝承地

神居古潭の景観（石狩川）

アイヌの伝説がある神居岩（深川市）

神居古潭の史跡等

1 軒ある売店

資源の概要	・石狩川が上川盆地を抜け、石狩平野へと流れていく途中の渓谷にある旭川を代表する景勝地。奇岩やおう穴群などに伝説の残るアイヌの聖地として知られる。 ・また、北海道指定史跡の「神居古潭竪穴住居遺跡」やストーンサークルなど縄文時代の遺跡群が点在し、古くから集落が存在していたといわれる。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・案内解説版や遊歩道の整備が行われている。 ・毎年9月に行われる「こたんまつり」において、通行の安全を祈願するアイヌの人々の儀式が行われている。
体験プログラム	なし
利用状況	こたんまつり：約 5,000 人来訪
PR、誘客の方法	旭川観光コンベンション協会HP、観光パンフレット等で紹介
交通アクセス等	JR旭川駅から車で約 40 分

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・神居古潭は、旭川のアイヌ文化等を語る上で重要な場所と考えられるが、近年はかつてのような観光地としての賑わいはなくなっている。アイヌに関する数々の神話や旭川の開拓にとっても重要な場所であったことをもっとアピールしていくことが必要である。

・売店が1軒あるが、店主は高齢のため、今後の店の存続に不安が残る。

広域周遊、広域連携に向けての課題：

・近年、アイヌ文化に対する関心が高まってきていることから、他のアイヌ関連施設との連携を強化し、アイヌ文化関連の新たな観光ルート開発が期待される。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
旭川市	旭川市博物館	もの/展示施設・伝承品・出土品

旭川市博物館入口

アイヌ文化展示コーナー

資源の概要	・当初は「旭川市立郷土博物館」の名で知られていたが、平成5年より旭川市大雪クリスタルホール内に移転し、旭川市博物館として現在に至っている。なお、平成 20 年には、アイヌ文化を中心とした展示にリニューアルしている。 ・常設展示室は上層・下層の2層構造になっており、上層階には北海道を代表する先住民族であるアイヌの人々やそれ以前の人々、または明治以降屯田兵として入植してきた和人たちなど各時代の住居を復元移築している(竪穴住居・チセ・屯田兵屋)。下層階では「北国の自然と人間のかかわり」をメインテーマに自然と人文系の資料を展示している。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・アイヌ文化関連については、上記の常設展示のほか、受付横「ゆきんぼ」展示内に「アイヌ文化情報コーナー」が設置されており、観光客や市民のアイヌ文化に対する理解を深めてもらうための情報提供を行っている。 ・開館時間:9:00～17:00 (入館は 16:30 まで) ・休館日:10～5 月の毎月第 2・4 月曜日、年末年始及び施設点検日 ・見学料金:大人 300 円、高校生 200 円、中学生以下無料
体験プログラム	・博物館としての様々な体験学習メニューが用意されており、アイヌ関連では次のようなメニューが用意されている(要事前相談・予約)。 ＜案内解説＞ワークシートを使った学習(アイヌ文化版)、アイヌのくらし解説 ＜体験学習＞カルタを使ってアイヌ語体験、アイヌ文様コースターを作ってみよう、アイヌのお守り「エカエカ」を作ってみよう、アニメで学ぶアイヌ文化、など
利用状況	・平成27年度に展示のニューアルを行い(この年は休館)、その後利用者数は大きく増加している。

	平成 25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	利用総数(人)	前年比(%)	利用総数(人)	前年比(%)	利用総数(人)
入館者数	23,954	22,885	23,219	24,511	27,999
うち有料	7,675	7,677	9,353	10,775	12,869
うち無料	16,279	15,208	13,866	13,736	15,130

・最近外国人の利用も増えている(全体の 3～5%ぐらい)。アジアとヨーロッパとの割合は1:1ぐらい。インドネシア、マレーシアの富裕層や、タイの観光客が増えている。

PR、誘客の方法	旭川市HP、観光パンフレット等で紹介
交通アクセス等	JR旭川駅から徒歩 10 分。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題:

・旭川市は、道央圏、道東圏、道北圏の3つの圏域をつなぐ結節点となっている。そうした立地特性を生かして、特に道東や道北のアイヌ文化関連施設との連携を図ることで、大きな観光周遊の可能性がある。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題:

・旭川市は、道央圏、道東圏、道北圏の3つの圏域をつなぐ結節点となっている。そうした立地特性を生かして、特に道東や道北のアイヌ文化関連施設との連携を図ることで、観光周遊ルート造成の可能性がある。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
名寄市	北国博物館	もの/展示施設・伝承品

北国博物館アイヌ文化コーナー

同左（北風磯吉翁の展示）

資源の概要	・北国をテーマに、寒冷多雪な北国の冬の生活文化の展示と厳寒期に見られる冬の自然現象などについて展示している。 ・また、郷土コーナーとして国指定天然記念物である「名寄鈴石」「名寄高師小僧」や名寄の名を全国に広めた力士「名寄岩」などについて展示している。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・博物館内の展示においてアイヌ文化コーナーを設け、紹介している。かつて名寄市に居住していたアイヌ民族で、日ロ戦争の英雄となった北風磯吉翁の展示コーナーもある。このほか、松浦武四郎に関する研究を通じてこの地域のアイヌ文化を紹介 ・開館時間：9:00～17:00（入館は 16:30 まで）・休館日：毎週月曜日、年末・年始 ・入館料：一般・学生 220 円、中校生以下無料
体験プログラム	・博物館では、年間20回以上の行事を企画・開催しているが、今年は北海道命名150 年ということで、松浦武四郎の企画展、講座も開催している。また、20年ぐらい前から、不定期ではあるが天塩川流域講座をこれまで13回開催している。 主な体験メニュー（ホームページより）

メニュー	場所	時期	対象学年	人数	所用時間
羽釜ご飯	野外（雨天不可）	6月から9月	小学4年生から6年生	30人まで	2時間から2時間30分
しか笛	館内	年中	小学3年生から6年生	30人まで	30分から1時間
アイヌ・ウィルタ切り絵模様	館内	年中	小学3年生から6年生	30人まで	30分から
オリジナルキャンドル	館内	年中	小学4年生から6年生	30人まで	2時間
かんじき・スノーシュー	野外（博物館周辺）	冬期間	小学1年生から6年生	20人まで	30分から
そりあそび	野外（博物館周辺）	冬期間	小学1年生から6年生	記載なし	記載なし

多言語対応	・英語のパンフレットあり。博物館のウェブサイトは、名寄市のHP上で紹介（英語、繁体字、簡体字、ロシア語に対応）
利用状況	・ここ数年間は年間利用者数 10,000 人～12,000 人ぐらいで推移している。 ・内訳は、道内客7割、道外客2割、外国人1割
PR、誘客の方法	・パンフレット、HP等で PR ・近年は台湾からの教育旅行が増加しており、そうした交流を通じて PR している。
交通アクセス等	名寄駅から徒歩15分

観光コンテンツとしての可能性、課題：

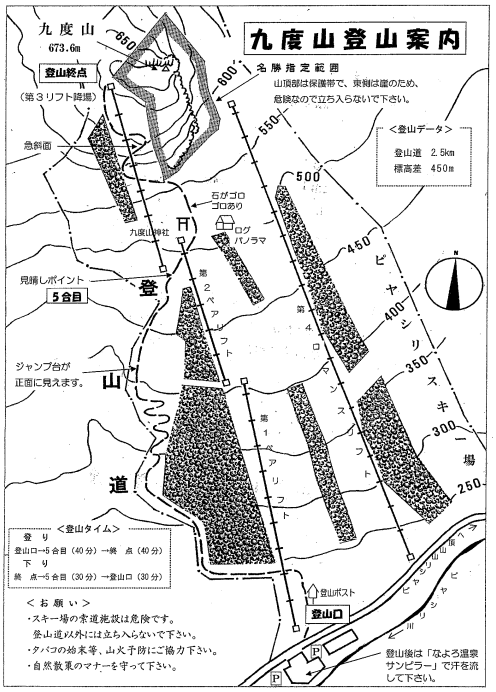
・名寄市にはピリカノカのクトゥンヌプリ（九度山）などアイヌに関する史跡がみられるが、その知名度は低い。今後、松浦武四郎日誌などと重ね合わせて、名寄市のアイヌ文化をさらに PR していくことが望まれる。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題：

・恩根内テッシの項で記載したように、松浦武四郎の「天塩日誌」をテーマに、今後関係市町村が連携し、アイヌ文化を含む地域の資源を組み合わせた各種モデルコースをつくり、広域観光の振興を図ることが期待される。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
名寄市	名勝クトゥンヌプリ(九度山)	場所/名勝ピリカノカ

九度山山頂部(ピリカノカに指定)



資源の概要	・九度山の名称はアイヌ語の「クトゥンヌプリ」(岩崖がある山)に由来し、別名「チノミシリ」(我々が祀る山)とも呼ばれ、その山容はアイヌの人たちにとって日々の祈りの対象であり、狩猟の時の目印の山として大切な存在だった。 ・現在はウィンタースポーツや自然散策に利用されており、アイヌの時代から今日まで地域のシンボル的な山であったことから、その保護を図る目的でその山頂部が国指定の名勝ピリカノカに指定された。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・麓の宿泊施設「サンピラー温泉」の正面玄関の前に説明看板が設置されている。 ・北国博物館において九度山の紹介をしている。
体験プログラム	なし
利用状況	不明
PR、誘客の方法	天塩川リバーマップで紹介
交通アクセス等	JR名寄駅からバスで約40分。ピヤシリスキー場まで1日5便路線バスが走っている。

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・簡単に登れる山なので、現地でピリカノカの一層の周知を図り、利用を促進することが必要と思われる。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題:

・前記の北国博物館と同じ。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
美深町	恩根内テッシ	場所/地名伝承地

橋から見た恩根内テッシ

川の看板には天塩川の名の由来が記されている。

資源の概要	・天塩川という名の由来はアイヌ語の「テッシ・オ・ペッ」から来ているといわれる。これは「梁(やな)・多い・川」という意味で、簗(テッシ)のような形の岩が川を横断しているところがあったことから、このように呼ばれたといわれる。 ・安政 4 年(1857 年)6 月 7 日、幕府の命を受け天塩川水源までの調査をした松浦武四郎は、6 月 12 日アイヌの人を道案内に川を遡って恩根内小車(オグルマ・トマ・ナイ=小車苫内=)を訪れた。翌 6 月 13 日テッシに出た武四郎は、「大昔に神が作り並べた」というアイヌ伝説の通り、川の中に一条の岩が並んでいる様子を見て、「天塩川名」の由来「テッシ」は、この場所の地形が語源に違いないと「天塩日誌」に書き残している。 ・写真は美深町恩根内付近のテッシで、このような場所はこの近くに数多く見かけられたといわれる。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・恩根内テッシについては、特に観光的な整備はされていない。 ・松浦武四郎の天塩日誌の中で紹介された、天塩川の名前の由来となった「テッシ」は「紋穂内テッシ」として、現在のびふかアイランド三日月湖(旧天塩川河川)にあったとされるが、天塩川河川整備により今は見られない。現在、美深町文化財「天塩川名由来の地」として登録されており、その場所には縮尺10分の1の模型と記念碑がある。 ・旭川開発建設部では、天塩川沿川にある観光資源・施設等を網羅した「天塩川リバーマップ」を作成しており、この中に恩根内テッシも記載されている。
体験プログラム	なし
利用状況	なし
PR、誘客の方法	上記天塩川リバーマップで紹介
交通アクセス等	JR美深駅より路線バスで 20 分

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・テッシは、アイヌ文化に関する特徴的な景観資源として注目され、ストーリー性もあり、非常に重要な資源と思われる。人工構造物が少ない天塩川への環境に配慮し、観光資源としてどのように活用していくかが課題である。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題:

・松浦武四郎は、天塩川沿いの地域に数多くの足跡を残しており、その時の様子を「天塩日誌」に記している。「天塩日誌」は、北海道という地名が生まれるきっかけとなった資料としても有名である。

・今後、「天塩日誌」をテーマに、関係市町村が連携し、アイヌ文化を含む地域の資源を組み合わせた各種モデルコースをつくり、広域観光の振興を図ることが期待される。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
稚内市	稚内市北方記念館	もの/ 展示施設･伝承品･出土品

稚内市北方記念館(外観)

同左(アイヌ文化展示コーナー)

宗谷アイヌの紹介

宗谷アイヌ

ソウヤ（現在の稚内市宗谷）を中心に居住していたアイヌの人びとを宗谷アイヌといいます。19 世紀はじめには 400 人規模の人が住んでいました。北海道アイヌ文化と樺太アイヌ文化の接点をなす重要な場所に位置しているにもかかわらず、その文化的実態はよくわかっていません。1961 年（昭和 36 年）の柏木ベンさんの逝去により宗谷アイヌの文化の伝承者は絶えました。写真はありし日のベンさんです。（北方記念館展示パネルより）

資源の概要	「稚内市北方記念館」は、稚内市の開基(1879年)100 年目にあたる昭和 53 年(1978 年)7 月に稚内公園の丘陵上に建設された地上 80m、海抜 250mの展望塔のある建物。 展望台の基部となる 1 階と2階部分には「北方記念館」があり、稚内市や樺太などの郷土資料や、間宮林蔵の足跡をたどる展示、アイヌ民族に関する資料などが展示されている。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	･アイヌ展示コーナーを設けて関係資料を展示 ･間宮林蔵･伊能忠敬が記した文書や絵画で当時のアイヌ民族の様子を紹介 ･多言語対応は未整備 ･開館時間:9:00～17:00　　開館期間:4 月 28 日～10 月 31 日(平成 30 年度) ･休館日:毎週月曜日(ただし、6 月 1 日～9 月 30 日は無休) ･見学料金:一般･高校生･大学生 400 円、小中校生 200 円
体験プログラム	なし
利用状況	年間利用者数:約 18,000 人
PR、誘客の方法	HP、観光パンフレットで紹介
交通アクセス等	JR稚内駅より車で 10 分

観光コンテンツとしての可能性、課題:

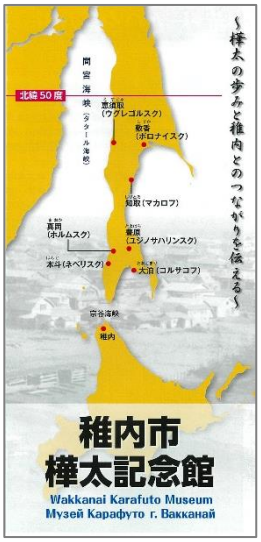
･かつて稚内から樺太にかけて居住していたアイヌ民族の歴史を知る唯一の手掛かりがこの北方記念館に残されているが、今は稚内にその文化を継承する人たちはいない。その意味では、過去に宗谷アイヌ、樺太アイヌが歩んできた歴史を知る重要な施設であり、今後より多くの観光客にその歴史を伝える必要がある。

･観光的には、樺太を含めこの地域に居住していたアイヌ民族が歩んできた歴史を正確に伝えるガイド育成が課題といえる。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題:

･旭川から稚内までの間に、音威子府、名寄、枝幸などアイヌに関連する資源等が多く存在しており、それらをつなぐことで新たな観光ルートづくりの可能性がある。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
稚内市	稚内市樺太記念館	もの/展示施設･伝承品



稚内市樺太記念館パンフレット

樺太アイヌ

樺太アイヌは北海道アイヌとほぼ共通した社会をもっていましたが、大陸との文化交流の結果、衣服・生活用具等に獣皮・魚皮を多用するなど、北海道アイヌとは異なる面もたくさんありました。樺太の南半分に多く住んでいて、夏の家は北海道のチセとほぼ同じものだったようですが、冬の寒さが厳しくなると寒気を防ぐために穴居していたと、間宮林蔵や松田伝十郎の記録に残されています。
犬の使い方が巧みで、冬には犬ぞり、夏には船を曳かせるなど重要な労働力でした。狩猟漁労を中心とし、春のニシン漁から秋の鮭漁までは男女に関係なく漁労に従事、秋から冬には、男性は山や海で狩猟、女性は家族の衣服や交易品をつくっていたようです。北海道アイヌと同じように熊祭りを行っていました。（北方記念館資料より）

資源の概要	･稚内市では、一般社団法人全国樺太連盟より 2,000 点にも及ぶ樺太の資料の寄贈を受け、平成30年5月に副港市場 2 階に稚内市樺太記念館を開設した。 ･考古学的な観点から資料を収集･展示している北方記念館に対して、樺太記念館では、明治以降の樺太とそこに生きてきた人々の姿を紹介している。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	･歴史資料の展示の中で、昔の絵葉書、写真等により樺太アイヌをはじめ当時の先住民族を紹介している。 ･開館時間：10:00～17:00 ･休館日：10 月 31 日までは無休、11 月 1 日～3 月 31 日は月曜休館 ･入館料：無料
体験プログラム	なし
利用状況	今年度オープンのため未集計
PR、誘客の方法	HP、観光パンフレットで紹介
交通アクセス等	稚内駅から徒歩 15 分

観光コンテンツとしての可能性、課題：
･明治以降昭和にかけて樺太に住む日本人の姿と樺太アイヌの人々の暮らしを知る貴重な資料は興味深い。
･稚内市北方記念館と同様、歴史の伝道者が必要

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題：
･稚内市北方記念館･百年記念塔と同様

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
枝幸町	オホーツクミュージアムえさし	もの/ 展示施設・伝承品・出土品

ミュージアム外観

アイヌ文化展示コーナー

資源の概要	・平成11年に開館した郷土資料館。枝幸町やオホーツク海沿岸の歴史・自然の展示をしている。特に、オホーツク文化を今に伝える「目梨泊遺跡」の出土品(国指定重要文化財)をはじめとした先史時代の展示は充実している。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・平成28年度より、セルフガイドとしての、無料貸し出しのタブレット PC による解説システム(博物館ナビシステム)を導入している。 ・開館時間:9:00～17:00 ・休館日:月曜日・年末年始・月末の最終火曜日 ・見学料金:無料
体験プログラム	・主に地域住民を対象に、琥珀磨き講座、アンモナイト発掘講座、夏休み昆虫観察講座などを毎月何回か開催している。 ・また、出前講座として、地元の小学校などに出向き、各種体験活動を行っている(平成29年度実績:32回・894 人参加)。
多言語対応	・印刷物としてのパンフレットは日本語のみ。ただし、タブレット PC による解説は、英語中国語(2種類)、タイ語に対応。
利用状況	・平成27年度に資料館のニューアルを行い(この年は休館)、その後利用者数は大きく増加している。

	平成 25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	利用総数(人)	前年比(%)	利用総数(人)	前年比(%)	利用総数(人)
入館者数	3,775	3,019	0	10,103	7,363
館外利用者数	968	842	568	535	894
合計	4,743	3,861	568	10,638	8,257

PR、誘客の方法	・HP、フェイスブック、パンフレットで紹介
交通アクセス等	・道北バスまたは宗谷バス「旭川駅前」→「枝幸ターミナル」(えさし号・約 220 分)

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・枝幸町にはオホーツク文化の遺跡が数多く発掘されており、オホーツク文化期の一大拠点になっていたと考えられている。また、同町には、アイヌ文化期を代表する遺跡であるチャシ跡も多数存在しており、オホーツク文化期からアイヌ文化期にわたる歴史を知る重要な地域になっている。このようなオホーツク地域における長い年月にわたる先住民族の興亡や暮らしそのものが、大きな観光要素、ストーリーになると思われる。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題:

・このミュージアムを起点にして、名勝ピリカノカのカムイエトゥ(神威岬)や町内のチャシ跡などをつなぐ観光コースの整備を進めるなど、より面的な観光への発展させることが必要と思われる。

・オホーツク地域に共通する歴史であるオホーツク文化やアイヌ文化をより多くの人に知ってもらうために、管内の博物館が連携して統一パンフレットや各種映像資料を作成するなど、共通の取り組みを行うことが必要。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
枝幸町・浜頓別町	名勝カムイエトウ（神威岬）	場所/名勝ピリカノカ

カムイエトゥ（浜頓別側からの眺め）

同左（枝幸側神威岬公園からの眺め）

カムイエトゥ全景（枝幸町観光協会パンフレットより）

ウバトマナイチャシ跡

資源の概要	・カムイエトゥ（神威岬）は、枝幸町と浜頓別町との境にある岬で、江戸時代より交通の難所として知られ、幕末にこの地を旅した松浦武四郎は、アイヌ民族が「神霊の宿る地」として岬を厚く敬っていたと記録している。このような背景から、平成22年には名勝ピリカノカに指定された。また、カムイエトゥの周辺にはウバトマナイチャシ跡もある。 ・なお、この地域一帯は、オホーツク人の大きな住居跡などオホーツク文化を知る重要な遺跡が発掘された場所でもあり、この関連でも興味深い地域となっている。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・「オホーツクミュージアムえさし」で関連資料の展示あり ・神威岬公園（枝幸町）及び神威岬の浜頓別側の駐車場に案内看板あり
体験プログラム	なし
多言語対応	なし
利用状況	統計なし
PR、誘客の方法	・枝幸町 HP、観光パンフレット
交通アクセス等	・枝幸交通バスターミナルからバスで 20 分

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・神威岬は、アイヌの人たちばかりではなく、明治以降北海道に来た開拓者たちにとっても信仰の対象となっていた場所でもある。松浦武四郎の記録を手掛かりに、さらにチャシ跡やオホーツク文化との関連性なども含め、この地を紹介するストーリーを考えていく必要がある。

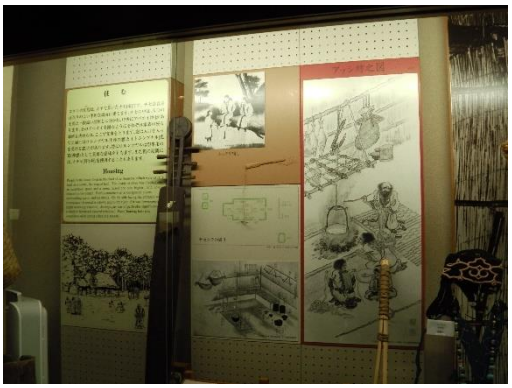
・上記のストーリーづくりとともにその見せ方や案内方法をさらに工夫することが望まれる。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題：

・前記の「オホーツクミュージアムえさし」での広域的な取り組みの中で進めていくことが必要である。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
弟子屈町	屈斜路コタンアイヌ民俗資料館	もの・人/展示施設・伝承品・重要無形民俗文化財 アイヌ古式舞踊

資料館入口



館内展示

文化財/資源の種別	・1982(昭和 57)年に建設された資料館(釧路市立博物館や釧路湿原展望台を設計した毛綱氏による設計)。 ・アイヌ民族の衣装や生活に関わる道具など 400 点以上の資料が展示されている。
資源の概要	・利用時間:9:00～17:00　4 月 29 日～10 月 31 日まで ・休館日:11 月 1 日～4 月 28 日まで ・入館料:おとな(高校生以上)420 円　こども 280 円
文化財/資源の提供の方法、利用形態	映像:アイヌに関する歴史と現代に生きるアイヌの人たちの活動や生活ぶりを紹介(所要時間 32 分)
体験プログラム	・アイヌ文様刺繍体験(しおり・コースター)　所要時間 30 分程度　無料 ・アイヌ民族衣装試着体験　無料　(「Instagram」用撮影枠も用意されている)
各種協力体制によるメニュー提供	・アイヌ文化保存会や近隣のアイヌの方々により、6 月にパリモモ(ウグイ)祭、10 月にイチャルパ(先祖供養)、8 月の町内イベントでアイヌ舞踊を披露している。 ・屈斜路コタンに創作アイヌ料理を提供し、アイヌ詞曲舞踊団「モシリ」のライヴが楽しめる飲食・宿泊施設があるが、特に民俗資料館と連携した取組はない。
多言語対応	・館内の展示仮説や説明の表示は、英語併記されている。 ・各解説パネル近くのQRコードを読み取ると解説パネルの翻訳を見ることができる。(中国語(簡体字・繁体字)、韓国語、フランス語)
利用状況	年間 5,249 人(H29 年度)うち外国人 490 人
PR、誘客の方法	・HPに掲載
交通アクセス	・JR 摩周駅から車で約 20 分

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・町内に松浦武四郎がたどったルート(美幌峠、屈斜路湖、摩周湖、釧路川等)があることから、三重県松阪市と弟子屈町とでの交流事業を行っており、今後も交流を深めることで、武四郎を通じてアイヌ文化を理解する教材や資料を充実していくことが可能。

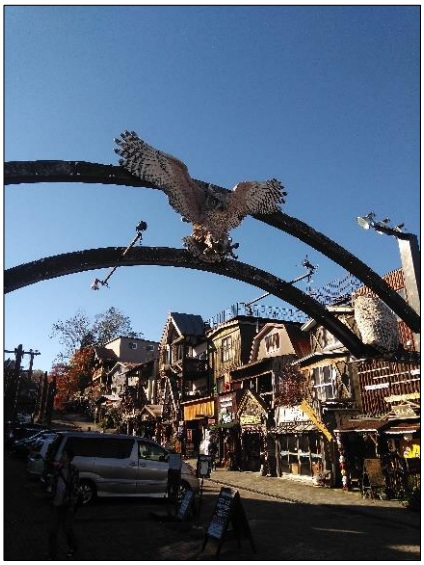
・史跡釧路川流域チャシ跡群の解説を充実させることで、カヌーツアーと組合わせた活用が考えられる。

広域周遊・広域連携に向けた可能性、課題:

・史跡釧路川流域チャシ跡群を構成する標茶町、釧路町、釧路市と連携することで、チャシ跡めぐりなどの広域的な活用可能性がある。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
釧路市	阿寒湖アイヌシアターイコロ	もの・人/展示施設・伝承品・重要無形民俗文化財アイヌ古式舞踊

シアター入口



シアターへのアクセス路となるアイヌコタン

資源の概要	・アイヌ民族の伝統文化を継承し、紹介する拠点施設。イコロはアイヌ語で宝の意。 ・座席： 階段状 332、立見席 約 120 人分 ・舞台で火や舟を使った演出もできるように排煙設備や水路も設置されている。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・上演時間：（古式舞踊は季節により上演時間は変動） 古式舞踊（30 分） 11:00、13:30、15:00、16:30、20:00（7/1 から 8/31） 11 月から 4 月下旬までの上演は夜間のみ イオマンテの火まつり（4-11 月）21:00 ・阿寒アイヌ人形劇（45 分） 団体観賞のみ ・料金 古式舞踊 大人 1,080 円 小学生 490 円 イオマンテの火まつり 大人 1,080 円 小学生 無料 人形劇 大人 980 円、中高生団体 850 円 小学生団体 590 円
体験プログラム	・工芸木彫り体験（60 分）1,400 円 5 名より受付 要予約 ・刺繍体験（60 分）1,600 円（30 分延長ごとに 500 円） 5 名より受付 要予約 ・ムックリ講習（15 分）700 円 15 名より受付 ・ムックリ製作（60 分）1,200 円 （材料費込み）5 名より受付 要予約 ・講話（アイヌ民族の歴史）（15 分/30 分）220 円 440 円 上記の体験プログラムと古式舞踊見学の組合せも可能 ・イベントとして、毎年 7 月にヒメマス祭り（カバチュプノミ）、10 月にまりも祭りが開催される。
各種協力体制によるメニュー提供	・阿寒観光協会まちづくり推進機構や阿寒アイヌ工芸協同組合、阿寒湖温泉旅館組合などでつくる阿寒湖アイヌシアター運営協議会で管理運営。 ・阿寒湖アイヌコタンに隣接し、周辺にはかつてのアイヌ民家を再現したアイヌ生活記念館、木彫りや刺繍の作品等を販売する民芸品店、飲食店がある。
多言語対応	・ステージの左右 2 カ所のスクリーンに英語、韓国語、中国語の解説文を映写。 ・HPは英語、簡体字、繁体字、韓国語対応 パンフレットも多言語対応。
利用状況	年間利用者数： 58,424 人（H28 年度） 59,591 人（H29 年度）

PR、誘客の方法	・WEBプロモーション、阿寒観光協会まちづくり推進機構や阿寒湖温泉旅館組合などと連携した誘客活動等 ・宣伝カーによる温泉街におけるPR 活動
交通アクセス	・阿寒湖バスセンターより徒歩 10 分。 ・JR 釧路駅からバス約 2 時間、釧路空港からバス約 1 時間 20 分

観光コンテンツとしての可能性、課題

・阿寒湖温泉で体験できるアイヌ文化は観光事業と融合し、古式舞踊や人形劇、体験プログラムにより、観光客をはじめ教育旅行や外国人旅行者など国内外に発信されている。

・アイヌ文化の発信拠点として、最先端のデジタルアートを採用するなどエンターテイメントとしての魅力も高めた新演目「阿寒ユーカラ・ロストカムイ」が 3/18 より公演開始となる。

・また、H31 年 7 月に開業が予定されている、夜の森を舞台にしたデジタルアートミュージアム「KAMUY LUMINA（カムイ・ルミナ）」の中でもアイヌ文化をモチーフとしており、ロストカムイと連動させ、発信力の強化を図る。

・アイヌの人々による説明や解説など、より深くアイヌ文化を知りたい、体験したい外国人を含む旅行者のためのメニュー（あるいはガイド）が求められており、英語でもコミュニケーションがとれるガイド育成の取組が進められている。

広域周遊・広域連携に向けた可能性、課題：

・釧路市立博物館・同埋蔵文化財調査センター・史跡釧路川流域チャシ跡群と連携することで、場所／もの／人が揃ったアイヌ文化資源としての活用が可能である。

・まりも祭りは昭和 25 年から継続して行われており、道内のアイヌの方々も多く参加している。この道内のアイヌの方々との連携を深めていくことが望まれる。

・年間を通じてほぼ毎日アイヌ古式舞踊を見学できるなどのアイヌ文化の拠点として、ひがし北海道エリアでの連携を図ることにより、より多様なツアーを企画することが可能となる。

・アイヌ文化をテーマとした北海道内を広域周遊する「ユーカラ街道」ルートの構築にむけ、広域連携で取組が推進されている。

・2021 年に自然、異文化、アクティビティを要素とするアドベンチャーツーリズムのワールドサミットを北海道へ誘致する方針が国から示され、アイヌ文化の重要性が増す中、広域周遊・連携に向けた取組が推進されている。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
釧路市	史跡釧路川流域チャシ跡群 （モシリヤチャシ跡及びハルトルチャランケチャシ跡）	場所/チャシ跡

モシリヤチャシ跡

ハルトルチャランケチャシ跡

資源の概要	・史跡釧路川流域チャシ跡群は、釧路市・釧路町・標茶町・弟子屈町に所在する 11 のチャシ跡で構成される。 モシリヤチャシ跡：9,800 ㎡のお供え餅状チャシ跡で、実在するアイヌの先祖が天下ったという伝承をもつ。 ハルトルチャランケチャシ跡：11,700 ㎡の春採湖に突き出す半島状のチャシ跡。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・利用時間：モシリヤチャシ跡は開錠が必要なため 10:00～15:00 を目途としている。 ・休館日：所管する埋蔵文化財調査センターの休館日は対応不可。 ・説明板：　有り ・案内ガイド：チャシ跡を巡るツアーや個人観光客に対して、事前の申し込みがあった場合に釧路市埋蔵文化財調査センター職員 3 名（考古学担当学芸員）が対応。 ・利用料金：現在のところ無料 ・講座、ツアー：史跡探訪会（釧路市埋蔵文化財調査センター主催） ・イベント：モシリヤこども神輿開催時の見学開放 ・多言語対応：なし
体験プログラム	なし
利用状況	・モシリヤチャシ跡は柵で囲われており、市教委に申し出て開けてもらう必要がある。 ・ハルトルチャランケチャシ跡はいつでも見学可能。 ・2017 年度実績： ①団体ツアー受け入れ：12 件、10～11 月、399 人（2017 年度実績） ②個人観光客：3 件、7～8 月、5 人 ③各種研究会：2 件、7・10 月、22 人 ④市主催事業（史跡探訪会）：1 回、7 月、31 人 ・利用者内訳　①、②は道外、③、④は道内。 ・2018 年度試行： 地元事業との共催（もしりや子供みこし）：1 回、187 人
PR、誘客の方法	市広報誌、博物館 H.P.
交通アクセス等	JR釧路駅から 1.8km　徒歩約 20 分

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・ダムのない川（釧路川）でのカヌー川下りで釧路湿原、動・植物、遺跡、チャシ跡の見学が可能。

・関係自治体による史跡保存・活用計画の策定、普及・活用団体の育成など、史跡釧路川流域チャシ跡群全体の活用を意識した取り組みが課題。 ・釧路川流域を領域（イオル）とする、アイヌの人々の生活・信仰・儀礼がストーリーの要素となる。
広域周遊、広域連携に向けての可能性、課題： ・東北海道のユニークな先史文化を楽しみながら学べる遺跡観光に向けたテーマやストーリーの構築、現施設のブラッシュアップ、長時間移動に耐えうる内容、解説の充実。地元学芸員の連携協力。 ・釧路市博物館・同埋蔵文化財調査センター・阿寒湖アイヌシアターと連携することで、場所／もの／人が揃った資源としての活用が可能である。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
釧路市	釧路市立博物館	もの/ 展示施設・伝承品・出土品

館内の展示

資源の概要	・1936(昭和 11)年 7 月に創立され、現在地の春採湖畔に 1983(昭和 58)年 11 月に移転した。釧路地方の自然と歴史を紹介する総合博物館。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・利用時間:9 時半～17 時(常設展入場は 16 時半まで) ・休館日:月曜日、11 月 4 日から 3 月末までの祝日、年末年始 ・常設展入場料:大人 470 円　高校生 250 円　小・中学生 110 円 ・展示映像:有り　館全体の音声ガイドあり ・ガイド対応:団体入館者で、事前に申込があった場合には、入館料のみで対応。 ・アイヌ文化関連事業実施の際、必要の都度地元のアイヌ協会へ協力を依頼。 ・案内表示、キャプション、パンフレット、HPについては、英語版あり。 ・館内 free wi-fi
体験プログラム	なし
利用状況	・年間利用者数　平成 29 年度実績:31,155 名 ・利用者内訳　平成 29 年度実績:海外　2,239 名　道内外の統計なし ・利用形態　平成 29 年度実績:団体　2,875 名　個人　9,982 名(有料入館者に限る。)　無料入館者(18,298 名)については、団体・個人の統計なし
PR、誘客の方法	・市広報誌、HP、プレスリリース、フェイスブック、ツイッターなど ・平成 30 年度途中から、tripadvisor オーナー登録 ・観光振興室、港湾空港振興課と連携して情報発信
交通アクセス等	・釧路駅前バスターミナルより「市立病院経由」と表示された路線バスに乗車 「市立病院」バス停下車徒歩 5 分

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・平成 30 年度、ゴールデンカムイスタンプラリー参加施設に選定されている。

・インバウンドのさらなる取り込みに向けた多言語対応の充実。

広域周遊、広域連携に向けての可能性、課題:

・釧路市博物館・同埋蔵文化財調査センター・阿寒湖アイヌシアターと連携することで、場所／もの／人が揃った資源としての活用可能性がある。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
白糠町	アイヌ文化活動施設 ウレシパチセ	もの・人/展示施設・ 伝承品・重要無形民俗文化財アイヌ古式舞踊

ウレシパチセ
建物全体

展示コーナー

白糠アイヌ文化
保存会の踊り
フンペリムセ
（クジラ・踊り）

体験プログラム用
刺繍セット
中央の飲み物は
儀式時の発酵飲料
トノト

資源の概要	・「ウレシパチセ」とは「互いに育む家」を意味し、アイヌ伝統文化の体験、交流、情報発信の場として、平成 30 年4月に完成した、アイヌ文化の伝承・展示施設。 ・重要無形民俗文化財アイヌの古式舞踊などを披露 ・木造平屋 389 ㎡　伝統儀式の間、研修室、調理室、展示スペース　150 人収容
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・利用時間：10：00～18：00　　休館日：月曜日 ・入館料：　無料 ・映像展示あり(ししゃも祭など) ・案内ガイド　：可能な範囲で白糠アイヌ文化保存会が対応 ・儀式イベント 　8月の第一日曜：ふるさと祭りイチャルパ(チセ裏山のチャシ跡で実施) 　9月の第一日曜：フンペ祭イチャルパ 　11 月の第一日曜：ししゃも祭
体験プログラム	・アイヌ刺繍、ムックリ作成・演奏、踊り体験、アイヌ料理体験 いずれも白糠アイヌ文化保存会で対応。また、出張公演も対応。
利用状況	・平成 30 年度オープンしたばかり。 ・平成 29 年度：アイヌ文化保存会による出前講座　町内の学校が主。 ・過去にアイヌ文化保存会でクルーズ(ピースボート)の対応も行った。 　(伝統料理作り、古式舞踊、アイヌ語講座、ムックリ体験等)
PR、誘客の方法	・町では、アイヌ文化の体験等を核とした観光プログラムの調査・開発、首都圏でのプロモーション事業を実施している。
交通アクセス等	JR白糠駅から徒歩 6 分　(約 600m)

観光コンテンツとしての可能性、課題：

伝承地ユクランヌプリ(鹿・降ろし・山)、フンペリムセ(クジラ・踊り)発祥地、石炭岬チャシ跡(燃える石の伝説)など

広域周遊、広域連携に向けての可能性、課題：

・町内にアイヌ語地名の伝承地やチャシ跡があり、場所／もの／人が揃った資源として活用可能。

・サコロペ(英雄叙事詩：道央圏ではユカラ)などの同じ伝承をもつ地域との連携

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
根室市	史跡根室半島チャシ跡群 （ヲンネモトチャシ跡）	場所／チャシ跡

ヲンネモトチャシ跡

観光案内所内にある 100 名城スタンプ

資源の概要	・根室市内には 32 箇所のチャシ跡が残り、そのうち、根室半島内に所在する 24 のチャシ跡が国指定史跡に指定されている。 ・一般公開用に整備されているのはヲンネモトとノツカマップ1・2号のみ。 ・日本 100 名城（平成 19(2007)年公益社団法人日本城郭協会認定）
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・屋外にあるので、特に利用時間はなし。沿道に案内表示板、散策路、解説板有り。 ・根室市民で構成する「ねむろトコロジストの会」で団体向けにヲンネモトチャシ跡とノツカマフ 1 号・2 号の現地ガイドを行っている。500 円/人（90 分まで）
体験プログラム	なし
多言語対応	・スマホのアプリをダウンロードすることにより、英語、中国語（簡体字）で音声案内。貸出し端末数 10 台。
利用状況	・本州旅行会社のツアーが比較的頻繁に組まれている。 ・チャシ跡推定来訪者 平成 27 年度 1,935 人（団体 16 件）　平成 28 年度 2,177 人（団体 11 件） 平成 29 年度 3,261 人（団体 26 件）　団体の 9 割前後は本州客
PR、誘客の方法約	・根室市観光協会HPで詳細に紹介。 ・日本 100 名城スタンプのスタンプ設置個所は、根室市歴史と自然の資料館、根室市観光インフォメーションセンターの 2 か所。 ・根室市観光インフォメーションセンター内にあるお土産屋さんでは、「日本 100 名城根室半島チャシ跡群」グッズが販売されている。。
交通アクセス等	・根室駅前ターミナルから根室交通納沙布線でバス停「納沙布岬」下車徒歩約 30 分 「納沙布岬」にある根室市北方領土資料館でレンタサイクル（5 台程度）

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・100 名城巡りに、本州から年間約 3,000 人のツアー客がチャシ跡を訪れている。これらの何割かの旅行者を、道東の標津遺跡群、北方民族博物館、最寄貝塚等へ導くツアー開発が期待される。

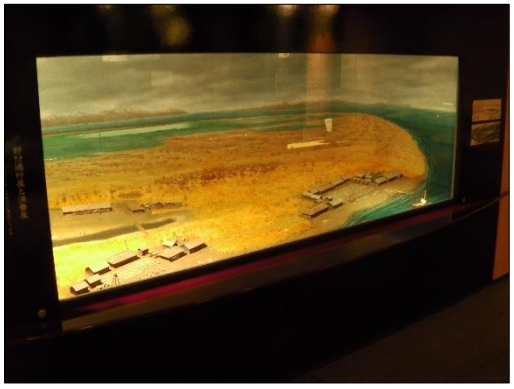
・根室市街地にある「根室市歴史と自然の資料館」ではチャシ跡の地形模型を備え、オホーツク文化や擦文文化の資料を展示し、アイヌ文化に至る文化についても理解を深められることから、史跡とセット、あるいは荒天時で史跡を見学できないときの資料館の利用が考えられる。

広域周遊、広域連携に向けての可能性、課題：

・日本遺産（『鮭の聖地』の物語～根室海峡1万年の道程～）に申請中の根室管内 5 市町の連携推進

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	文化財/資源の種別
別海町	加賀家文書館	もの/ 展示施設・伝承品・出土品

加賀伝蔵が記録した文書



野付通行屋と漁番屋のジオラマ

資源の概要	幕末にノツケ(野付半島)でアイヌ語通辞(つうじ・通訳者)として活躍、多くの資料を残した「加賀伝蔵」の業績、江戸幕府によって野付半島先端に設置された野付通行屋と漁番屋のジオラマ、野付半島に残る遺跡などを紹介
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・利用時間:9:00～17:00 ・休館日:第二・四月曜日　第一・三・五日曜日　祝日　12 月 29 日～1 月 6 日 ・入館料:　郷土資料館と加賀家文書館　共通　一般 300 円　高校生以下無料 ・映像展示あり ・案内ガイド　:申し出があれば学芸員が対応(事前予約)
体験プログラム	・なし
利用状況	・平成 29 年度:有料観覧者　320 人　無料観覧者:1,015 人
PR、誘客の方法	・別海町HPに掲載
交通アクセス等	・路線バス:中標津バスターミナル～常盤(約 40 分)

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・加賀伝蔵が松浦武四郎とも交流があったことから、野付通行屋遺跡と松浦武四郎でストーリーが組める。

・野付半島ネイチャーセンターで、野付半島先端部にある野付通行屋跡遺跡についての展示があり、ネイチャーセンターとの連携よるガイドツアーなどが考えられる。

広域周遊、広域連携に向けての可能性、課題:

・町内にアイヌ語地名の伝承地やチャシ跡があり、これらを組み合わせたツアーが考えられる。

・松浦武四郎の記録が残る地域との連携。

・北海道根室振興局が取り組んでいる「北方領土遺産」による根室管内の連携。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
標津町	史跡　標津遺跡群 伊茶仁カリカリウス遺跡 （ポー川史跡自然公園）	場所・もの/ 集落跡・チャシ跡・ 伝承品・出土品

チャシ跡周辺散策路

ビジターセンター内展示

資源の概要	・縄文からアイヌ文化期までの集落遺跡、チャシ跡 ・規模：4,015,000 ㎡（伊茶仁カリカリウス遺跡のみ）　散策路、解説板あり
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・利用時間：4 月 29 日～11 月 23 日（期間中無休）9：00～17：00 ・休館日：11 月 24 日～4 月 28 日（冬季） ・協力金：一般 320 円、高校・大学生 100 円、中学生以下無料 ・ビジターセンターは無料 ・案内ガイド　　要望があれば学芸員が可能な範囲で対応 ・標津ガイド協会（アイヌ文化資源の解説が出来る人は2～3人） ・ARスタンプラリー（日本語のみ：スマホにアプリをダウンロードしてスタンプラリー） ・毎年 6 月第 3 日曜日に標津アイヌ協会の主催により、史跡伊茶仁カリカリウス遺跡を会場とした先祖供養儀式「標津イチャルパ」が行われている。江戸時代中期に標津と国後島で起きた、クナシリ・メナシの戦いの犠牲者と、遺跡に眠る先人の供養を目的とした祈りの儀式が執り行われる。
体験プログラム	・ポー川カヌー体験　6～10 月：1 時間 30 分～2 時間（前日までに事前予約） 4,800 円（ガイド料、保険料、入園料込み） ・冬季スノーシュー体験あり
利用状況	・年間4～5千人（6月下旬～9月中旬が多い）　個人旅行の外国人（台湾、欧米） ・本州の旅行会社から学芸員へ解説の依頼やイチャルパ（アイヌの先祖供養）への問い合わせがあり、旅行会社のチャシツアーに組み込まれたことがある。 ・利用者層は修学旅行から個人旅行へシフトしてきている。
PR、誘客の方法	・標津町のHPに掲載
交通アクセス等	・中標津空港から24㎞（車で約 30 分） ・中標津バスターミナル（阿寒バス）から約 35 分「史跡公園前」下車徒歩 5 分 ・標津営業所（阿寒バス）から約 5 分「史跡公園前」下車徒歩 5 分

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・ポー川史跡自然公園、タブ山チャシ、会津藩とアイヌとの交流など、これらを結び付けたアイヌ文化ツアーが可能。また、縄文からアイヌ文化期までの集落遺跡、チャシ跡から、アイヌのルーツをテーマとしたツアーも考えられる。

・標津観光協会、教育委員会などの窓口を一本化することが課題となっている。

・旅行会社にメニュー提供するだけでなく、地域で DMO をつくり、戦略的に標津への来訪者を増大させる取り組みが必要。
広域周遊、広域連携に向けての可能性・課題： ・寛政元年(1789)に起きたクナシリ・メナシの戦いは、国後島、標津町が戦場となったとされており、それに関連したチャシ跡など、町内でストーリーを組みたて巡ることが可能。 ・史跡常呂遺跡群や最寄貝塚、根室半島チャシ跡群、北方民族博物館などと連携することで、道東におけるアイヌ文化のルーツや歴史を一体的に体感できる。 ・日本 100 名城の影響で根室から周遊する旅行者もいることから、道東チャシ跡群との連携が望まれる。 ・日本遺産(サケ文化ほか)に申請中の根室管内 5 市町との連携を推進することにより、より多様なルートやメニューの開発が可能となる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
標津町	町指定史跡　タブ山チャシ跡	場所／チャシ跡

チャシ跡入口

チャシ跡(後方は根室海峡)

資源の概要	野付半島の付け根にあり、対岸の国後島がよく見える断崖上に築かれたチャシ跡。寛文9年(1789)のクナシリ・メナシの戦いに際して築かれたと言われる。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	屋外にあるもので、特に利用時間はなし。散策路、解説板有り。
体験プログラム	なし
利用状況	・本州の旅行会社のチャシ跡巡り等のツアーコースに組み込まれたことがある。
PR、誘客の方法	なし
交通アクセス等	・中標津バスターミナルから約 21km ・最寄りバス停なし。自家用車・レンタカーによるアクセスに限定される。

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・知床連山や国後島、根室海峡の眺望。
・道東チャシめぐり、標津町特産のサケとアイヌの人々とのつながりからつくられるストーリー。
・案内ガイドの育成
・観光協会、教育委員会などの窓口を一本化。
・旅行会社にメニュー提供するだけでなく、地域で DMO をつくり標津ファンづくりの推進。

広域周遊、広域連携に向けての可能性、課題：

・ポー川史跡自然公園と連携することで、町内で場所／ものが揃った資源として活用が可能。
・日本 100 名城の影響で根室から周遊する旅行者もいることから、道東チャシ跡群との連携が望まれる。
・日本遺産(サケ文化ほか)に申請中の根室管内 5 市町との連携推進。

伝承拠点地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
羅臼町	羅臼町郷土資料館	もの/展示施設・ 伝承品・出土品

資料館展示室

重要文化財 「北海道松法川北岸遺跡出土品」

資源の概要	・旧植別小中学校の内部を改造し平成 23(2011)年 12 月にオープンした。 ・オホーツク文化期の遺跡から出土した重要文化財やアイヌ文化の熊送り遺構が確認されている遺跡などの出土品、ジオラマ等を展示。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・利用時間:9:00～17:00 ・休館日:土日、祝日、年末年始　7 月～9 月中旬は無休 ・入館料:無料 ・団体については、事前予約があれば学芸員が対応。
体験プログラム	・なし
利用状況	・平成 27 年度 2,056 人、平成 28 年度 1,940 人、平成 29 年度 1,736 人 ・8 月の利用者が最も多く、平成 29 年度は 6-9 月の 4 か月間で約 7 割を占める。 ・利用者内訳は、町内:町外は 3:7、町外では道内:道外は 4:6 と道外客が多い。 ・羅臼の観光船が欠航になると、入館者数が普段の2倍に増加。
PR、誘客の方法	・羅臼町のHP
交通アクセス等	・阿寒バス「峯浜町」バス停下車徒歩 3 分 ・羅臼市街地より郷土資料館まで約 18km

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・アイヌ文化ではキムンカムイ、レプンカムイと神様として敬われるヒグマやシャチが、知床ではアニマルウォッチングの対象となっている。アイヌ文化の精神性に影響を与えたとされるオホーツク文化の出土品(クマやシャチをかたどった容器や意匠品等)から、自然と歴史を組み合わせたストーリーやツアー企画が考えられる。

広域周遊、広域連携に向けての可能性、課題:

・史跡常呂遺跡群や最寄貝塚、標津遺跡群、根室半島チャシ跡群、北方民族博物館などと連携することで、道東におけるアイヌ文化の始まりと歴史を一体的に体感することが可能。

・日本 100 名城の影響で根室から周遊する旅行者がいることから、道東チャシ跡群との連携も望まれる。

・日本遺産(サケ文化ほか)に申請中の根室管内 5 市町の連携を推進することにより、より多様な観光スポットやルートを提供していくことが可能となる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
帯広市	帯広百年記念館 アイヌ民族文化情報センターリウカ	もの/展示施設・ 伝承品・出土品

センター内のサケの皮の展示

センター内で利用できる　アイヌの遊び「ウコニアシ」

資源の概要	・2006 年に帯広百年記念館に開設。「リウカ」はアイヌ語で「橋」の意味。 ・アイヌ文化の振興や普及・啓発を中心とした活動をおこなっている。アイヌ民族の伝統的な文化や歴史について、本やビデオ、音声資料などを使って学ぶことができる。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・利用時間：9:00～16:30 ・休館日：月曜日　祝日の翌日（土日を除く）　12 月 29 日～1 月 3 日 ・入館料：百年記念館展示室観覧料　おとな 380 円 高校生・おとな 65 歳以上 190 円中学生以下無料 「リウカ」のみの利用は無料 ・案内ガイド　：事前申し込みがあれば、職員が可能な範囲で対応 ・多言語対応：英語の DVD を用意している iPod　touch による展示解説（英語、中国語、韓国語対応） ・売店では、アイヌ文様のグッズや書籍等を販売している
体験プログラム	・シカ笛作成 10 分　切り絵 10 分　ウコニアシ（アイヌの遊び：ボードゲーム）　無料
利用状況	・リウカ入場者数：24,744 人（H29 年度/センサーカウンターによる） 8 月が最も多く、次いで 5 月、9 月、7 月と続く。
PR、誘客の方法	・リーフレット、HP　他の部署（文化課や社会課との連携による周知）
交通アクセス等	・JR帯広駅南口より徒歩約 20 分 ・バス停「緑ヶ丘 6 丁目」「春駒通 12 条」より徒歩 7～8 分

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・小中学生も楽しめる体験型のツールが用意されている。周辺の動物園、美術館、野草園と組み合わせて楽しむことができる。
・アイヌ文化に関する専門家等の人材不足のため、伝承者等の後継者の育成が必要。
・社会教育施設の枠を超えての観光資源化は困難。

広域周遊、広域連携に向けての可能性、課題：

・名勝ピリカノカのポロシリ（十勝幌尻岳）や帯広カムイトウウポポ保存会と連携することで、帯広市内で場所/もの/人が揃った資源として活用することが可能。
・帯広市内だけでなく、十勝管内のアイヌ文化の伝承団体やアイヌ関連の行事、講習会等を、HP で紹介しており、アイヌ文化に関する十勝管内の情報発信拠点としての機能も果たしている。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	文化財/資源の種別
帯広市	帯広カムイトウウポポ保存会/ 帯広市生活館(ふくろうの館)	もの・人/展示施設・伝承品・重要無形民俗文化財 アイヌ古式舞踊

アイヌ生活文化展で披露されたカムイノミ(左)と古式舞踊

資源の概要	＜帯広カムイトウウポポ(神の沼・歌)保存会＞ ・失われかけたアイヌの歌や踊り、また十勝地方のアイヌ語、料理、着物を受け継ぎ、次世代に伝えつつ、道内外で歌や踊りを披露する活動をおこなっている。 ・会員は、小学生から高齢者まで約 50 人近い。 ・2018 年 8 月北海道 150 年記念式典(天皇皇后両陛ご臨席)、2017 年冬季アジ大会(札幌)開会式にて、古式舞踊や歌を披露。 ＜帯広市生活館(愛称:ふくろうの館)＞ ・アイヌ語教室や刺しゅう教室などの文化活動やアイヌの人たちの生活、教育などについての相談などの事業がおこなわれている施設。 ・施設は、伝統儀式ができる床面に炉を切った大会議室、研修室、調理実習室、展示コーナーなどがある。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	＜帯広市生活館(愛称:ふくろうの館)＞ ・利用時間:9:00～22:00 ・休館日:月曜日 (祝日の場合は翌日) 12 月 29 日～1 月 3 日 ＜保存会が伝承し披露しているアイヌ文化＞ ・儀式(カムイノミ等)/古式舞踊、歌、ムックリ・トンコリ演奏 ・保存会は、この施設で第二、四日曜日に舞踊や演奏の練習を行っている。練習の見学も受入れている。 ・毎年秋に帯広アイヌ協会主催の「アイヌ生活文化展」がふくろうの館で開催され、当保存会が舞踊、演奏を披露している。
体験プログラム	・保存会が提供する体験プログラム(イベント時) 古式舞踊、ムックリ演奏
交通アクセス等	・バス停「白樺通 16 条」下車徒歩 5 分またはJR柏林台駅より約 1.2km

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・会員も仕事があるため披露の要請に全て対応できるわけではない。

・アイヌ文化伝承者の担い手育成が課題。

広域周遊、広域連携に向けての可能性、課題:

・披露先と連携することにより、披露する頻度を増やしたり、会の活動エリアを広められる。

・名勝ピリカノカのポロシリ(十勝幌尻岳)や帯広百年記念館と連携することで、帯広市内で場所/もの/人が揃った資源として活用することが可能。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	資源区分/資源の内容
帯広市・中札内村	名勝ポロシリ(十勝幌尻岳)	場所/名勝ピリカノカ

夏景色

冬景色

資源の概要	・札内川上流の日高山脈北東部に位置する十勝幌尻岳(ポロシリ)は、アイヌ語で「大きい・山」を意味する標高1，846メートルの山岳。十勝アイヌのチノミシリ(我ら・祈る・場所)として古くから大切にされてきた山。 ・平成 24(2012)年 9 月にピリカノカに指定された。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・帯広市では、八千代町西 4 線 194 八千代牧場(帯広市畜産研修センター(カウベルハウス))敷地内に標示板を設置している。 ・中札内村では、新札内東 5 線を景観ポイントに設定している。 ・登山道が整備されていたが、数年前の台風被害により登山道が崩壊した。現在は登山が困難な状態となっている。
体験プログラム	・なし
利用状況	・統計なし
PR、誘客の方法	・帯広市HP、中札内村HP
交通アクセス等	・帯広市八千代牧場: 帯広駅から約 32km 帯広空港から約 28km ・中札内村景観ポイント:帯広駅から約 32km

観光コンテンツとしての可能性、課題:

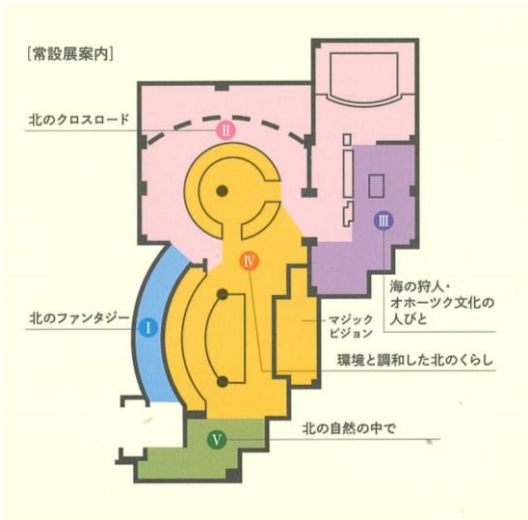
・看板設置個所や景観ポイントを、インスタグラム等の撮影地点としてPRすることなどが考えられる。

広域周遊、広域連携に向けての可能性、課題:

・帯広百年記念館や帯広カムイトウウポポ保存会と連携することで、帯広市内やその近郊で、場所/もの/人が揃ったアイヌ文化資源として活用することが可能。

伝承地域名	アイヌ文化に関する資源の名称	文化財/資源の種別
網走市	北海道立北方民族博物館	もの/展示施設･伝承品･出土品

北海道立北方民族博物館(外観)



北海道立北方民族博物館(アイヌ資料展示)

資源の概要	東はグリーンランドのエスキモーから西はスカンディナビアのサーミまでの北方の諸民族の文化と北海道のオホーツク文化を紹介している。建設されたのは 1991 年で、このような北方民族を専門に紹介する博物館としては国内唯一のものである。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	･北方圏各国の民族紹介との関連でアイヌ民族、オホーツク人等の解説を行っている。 ･案内ガイドは、事前に予約があれば、職員が館内ガイドを行っている(1グループ 10 人ぐらいまで)。 ･開館時間:9:30～16:30 (7～9 月は 9:00～17:00) ･休館日:月曜日(祝日の場合は翌平日) 年末年始 (7～9 月･2 月は無休) ･見学料金:一般 550 円、高校生･大学生 200 円 小中学生･65 歳以上無料
体験プログラム	･北方民族に対する関心を高め、理解を深めてもらうため、講演会や講座、講習会など各種プログラムを実施している。平成 30 年度においては、上映会3回、講座14回、講習会 10 回などが計画され、実施している。 ･また、館内ロビーには動物の毛皮を触ったり、土器の模様を間近で見られる体験コーナーが設置されている。 ･このほか、6月下旬には博物館主催の夏至まつりも行われている。

	団体向けのレクチャー、体験メニュー 網走！ 北方民族博物館レクチャーメニュー 【レクチャー】（お話） 20分～1時間 定員50名以内 無料 会場は講堂です。 メニュー以外のお話も可能ですのでご相談下さい。 1.「北方民族のくらし」 北に住む人びとの衣・食・住を中心に、くらし全般について広く紹介します。 2.「アイヌの歴史と文化」 アイヌ文化の成立から現代にいたるまで、人びとのくらしとその変化について概説します。 3.「北海道の歴史とオホーツク文化」 本州とは異なる北海道の歴史と、オホーツク海沿岸に栄えた先史文化について解説します。 【ビデオ上映】 定員50名以内 無料 会場は講堂です。 1.「ビデオ アイヌモシリ アイヌ民族の誇り」（2008年・日英2ヵ国語版） アイヌの伝統的生活や差別の歴史をたどり、現在のアイヌの状況を紹介します。 北海道 25分間 2.「ビデオ アイヌプリ～アイヌの心をつなぐ～」（2012年） 現代に生きるアイヌの姿や伝統文化の復興活動を紹介します。 （財）アイヌ文化振興・研究推進機構 30分間 3.「ビデオ トーテムの話」（英語版。日本語字幕あり） カナダ先住民の少年少女が祖先の文化について学ぶ内容です。カナダ国立映画制作庁制作 22分間。 （ビデオプログラムは他にもあります） 【体験学習（ものづくり）】 定員40名以内 会場は講堂です。 1.「ウイルタの切り絵づくり」 紙とはさみで美しい文様を作ります。材料代：一人100円（30分程度） 2.「ウイルタのやじろべえづくり」 サハリン先住民のウイルタのおもちゃ、やじろべえを作ります。材料代：一人300円（30分程度） 3.「イヌイトの知恵の輪づくり」 グリーンランドに暮らすイヌイトの知恵の輪を作ります。材料代：一人300円（30分程度） 4.「イヌイト・ヨーヨーづくり」 イヌイトのヨーヨーを作り遊びます。材料代：一人700円（60分程度） 5.「ナーナイ風ペンスタンド」 ロシアに暮らすナーナイの文様をあしらったペンスタンドをつくります。材料代：一人300円（30分程度） 6.「フェルトコースターづくり」 暑さを防ぐために靴やテントカバーに使われたフェルトを羊毛から作ります。材料代：一人500円（60分程度） ※このほか少人数対応の革のストラップづくりや皮製靴（モカシン）づくり、ひも織りなどいろいろなメニューがありますので、ご相談ください。
多言語対応	・展示に関する多言語対応は、主要な項目に関して一部英語表記はあるが、全体的には不十分である。ただし、リーフレットは日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、タイ語、ロシア語が用意され、音声ガイドは、日本語、英語、中国語、韓国語、タイ語に対応している。
利用状況	過去3年間の推移 平成27年度：24,221人 平成28年度：25,579人 平成29年度：25,420人 利用概要：月別では、7、8、9月及び2月が多くなっている。平成29年度の外国人利用者は2,616人で,香港、台湾、中国の順でアジアからの利用客が多いが、全体3分の1程度は欧米系の利用者となっている。
PR、誘客の方法	HP、パンフレット、ポスター、チラシ、観光ガイドブック、SNS
交通アクセス	網走駅からバス（施設めぐり線）約15分

観光コンテンツの充実に向けた可能性、課題：

・アイヌ民族だけでなく、多くの北方民族の文化について総合的に学べる施設であり、その存在意義は大きい。世界的視点から、他民族と比較してアイヌ文化を理解することができ、アイヌ文化の特性を観光客により明確に伝えることができる。その意味から、この施設を出発点にしたアイヌ文化を訪ねるツアーの企画が考えられる。

・充実した施設・展示と多様なソフトプログラムがうまく連動しており、現状の継続、発展が期待される。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題：

・オホーツク地域にあるオホーツク文化資源共通の課題として、オホーツク文化の普及・理解向上と観光振興に向けた地域全体でのネットワーク強化の体制づくりが必要と思われる。

・また、2020 年に開設される白老の民族共生象徴空間とどのように連携していくかが今後の大きな課題になるものと思われる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	文化財/資源の種別
網走市	網走市立郷土博物館	場所・もの/チャシ跡・展示施設・伝承品・出土品

網走市立郷土博物館(外観)

博物館の隣接地にあるチャシ跡(史跡・桂ケ岡砦跡)

資源の概要	・昭和 11 年(1936)に建設された網走市立郷土博物館は、北海道最古の博物館のひとつとして知られ、歴史的建築物としての価値はもちろん、網走の自然や歴史に関する充実した展示内容は高く評価されている。その中の常設展示の一室に、アイヌ文化資料を展示している。 ・博物館の隣接地にはアイヌの砦(チャシ)跡である史跡桂ケ岡砦跡がある。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・常設展示でアイヌ文化資料を展示 ・桂ケ岡砦跡には、史跡とその内容を示す案内看板が設置されている。 ・専属の案内ガイドはいない。 ・開館時間:9:00～17:00 (冬期間は 16:00) ・休館日:月曜日・祝日・年末年始 ・見学料金:大人 120 円、小人 60 円
体験プログラム	なし
多言語対応	なし
利用状況	過去3年間の推移 平成 27 年度: 4,272 人 平成 28 年度: 5,650 人 平成 29 年度: 5,129 人 利用概要:夏季、冬季の観光シーズンを中心に道外利用者が多く、外国人利用者も一定数みられる。
PR、誘客の方法	HP、パンフレット
交通アクセス	・網走駅より徒歩 15 分

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・アイヌのチャシ跡は、当時のアイヌの人たちの暮らしを知る重要な手掛かりといえる。桂ケ岡砦跡はその地形がはっきりと残っており、観光客に対して、チャシの意味合いや当時の生活を知ってもらう格好の資源になるものと思われる。博物館の展示と連動させながらユニークな解説を行うことで、観光客にとって興味深いストーリーがつくられる可能性がある。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題:

・モヨロ貝塚と同じく、道立北方民族博物館等との連携による(オホーツク文化+アイヌ文化)魅力的な観光コンテンツ開発が必要である。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	文化財/資源の種別
網走市	史跡最寄貝塚	場所・もの/遺跡・展示施設・出土品

モヨロ貝塚館(外観)

モヨロ貝塚館(内部展示)

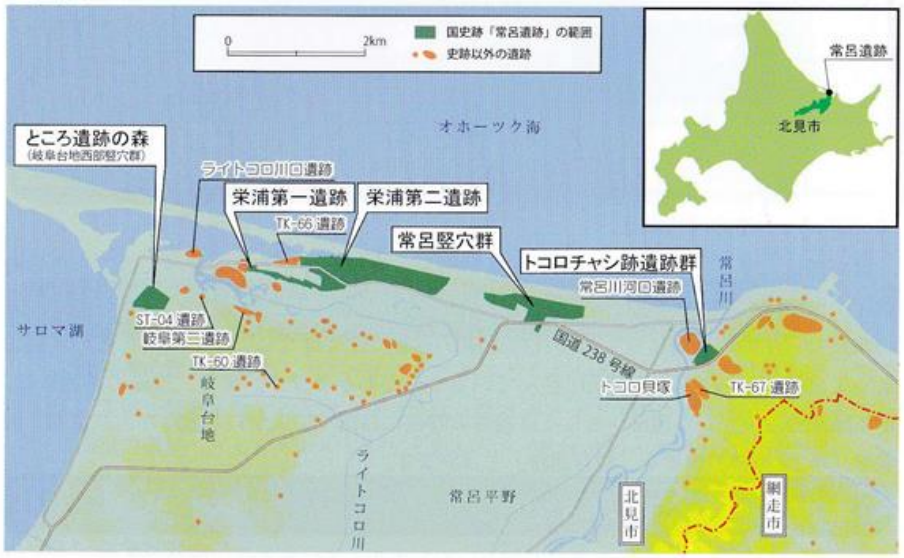
墓域

遺跡全体案内図

資源の概要	・網走川の河口の砂丘で発見された貝塚で、5～13世紀に渡来したとされるオホーツク人の生活を知る貴重な遺跡である。この貝塚は、明治中ごろから学界に知られていたが、大正初期より米村喜男衛(きおえ)による調査研究と保護活動の結果、広く知られるようになった。戦後は、東京大学、北海道大学、網走市立郷土博物館の共同調査が行われ、貝塚の一部と竪穴(たてあな)住居址数基が発掘された。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・網走市立郷土博物館分館「モヨロ貝塚館」で、発掘遺跡等に展示、解説を行っている。 ・屋外展示とし、オホーツク文化竪穴住居跡群、オホーツク文化墓域、オホーツク文化貝塚、続縄文文化竪穴住居跡群がある。 ・案内ガイド:解説員1名/無料/要予約 ・開館時間:9:00～17:00、ただし冬期間(11 月～4 月)は 16:00 まで ・休館日:月曜日・祝日・年末年始　※7～9 月は無休 ・入館料:大人 300 円、高校・大学生 200 円、小学・中学生 100 円
体験プログラム	・解説員付きで年間3～4回ほどの関連体験事業を実施 ・モヨロ人の石器づくり体験など ・イベントとして、年に一度モヨロまつりを開催(モヨロスープ無料提供など)
多言語対応	・日本語、英語、ロシア語、中国語、韓国語に対応した音声ガイダンスシステムを無料で貸し出し

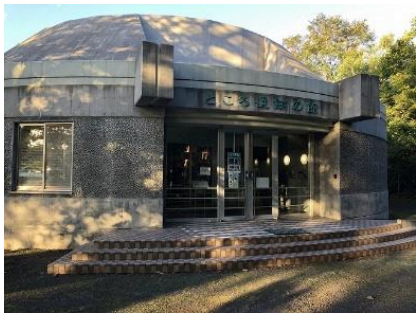
<table>
<tr><td>利用状況</td><td>過去3年間の推移
<table>
<tr><td>平成 27 年度</td><td>平成 28 年度</td><td>平成 29 年度</td></tr>
<tr><td>12,870 人</td><td>11,351 人</td><td>12,085 人</td></tr>
</table>
・利用概要：夏季、冬季の観光シーズンを中心に道外利用者が多く、外国人利用者も一定数みられる。</td></tr>
<tr><td>PR、誘客の方法</td><td>・HP、パンフレット</td></tr>
<tr><td>交通アクセス</td><td>・網走駅より徒歩約 20 分。</td></tr>
<tr><td colspan="2">観光コンテンツとしての可能性、課題：
・オホーツク文化は謎の多い部分が多く、そこに人々の想像をかき立てるロマンも潜んでおり、観光的な意味での魅力もある。そのつながりの中でアイヌ文化を位置づけ、ストーリー化を図ることが重要である。
・モヨロ貝塚は、2013 年に、屋外ミュージアムを含む博物館（モヨロ貝塚館）の大改修が行われ、展示内容が大幅に充実した。これにより、網走市立郷土博物館、道立北方民族博物館などを含めた網走市の博物館は充実し、全体として大きな観光資源になっている。
・今後はこれらの施設の連携を強化し、その中でオホーツク文化、アイヌ文化についての上記のストーリー性を高めながら、より興味深いガイドプログラムを作っていくことが必要である。さらに、近年外国人観光客が増加している状況を鑑み、多言語対応の充実、特にガイドの育成などが必要といえる。
・なお、モヨロ貝塚単独のイベントとして、上述した「モヨロまつり」が注目される。このようなイベントを市民向け、観光客向けに継続的に行うことで、より一層オホーツク文化等に関する観光コンテンツの充実化が図られると考えられる。
</td></tr>
<tr><td colspan="2">広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題：
・オホーツク文化に関する遺跡は、オホーツク海沿岸に広く分布しており、謎の多いオホーツク文化は今後観光的にもさらに関心が高まるものと予想される。モヨロ貝塚は、そうしたオホーツク文化の拠点的な施設であり、周辺の北見市や羅臼町、枝幸町の関連資源と連携しながら、オホーツク地域全体として、オホーツク文化、アイヌ文化の認知度を高めていくことが課題といえる。</td></tr>
</table>

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	文化財/資源の種別
北見市	史跡　常呂遺跡	場所・もの/遺跡・展示施設・出土品



史跡　常呂遺跡の概況図

ところ埋蔵文化財センター



ところ遺跡の館

資源の概要	1. 遺跡の概要 北見市のオホーツク沿岸の町・常呂には古い遺跡が数多く残されている。特に、オホーツク海やサロマ湖に面した地区の林の中にはいまだ開発されない広大な遺跡が残っており、以下の 4 つの地区全体をまとめて史跡「常呂遺跡」と言っている。 ①常呂竪穴群 ②栄浦第一遺跡・栄浦第二遺跡 ③ところ遺跡の森(岐阜台地西部竪穴群) ④トコロチャシ跡遺跡群 2. アイヌ関連遺跡 アイヌ文化期にかかわる遺跡としては、常呂川東岸の台地上に位置するトコロチャシ跡遺跡群がある。ここでは、縄文時代早期からアイヌ文化期まで各時期の遺構や遺物が出土している。チャシの内部にはアイヌ墓が一基と、オホーツク文化の竪穴住居のくぼみを利用した「物送り場」と考えられる祭祀場があった。
文化財/資源の提供の方法、利用形態	・ところ遺跡の館、ところ埋蔵文化財センター、東京大学文学部常呂資料陳列館において、発掘資料等の詳細な展示・解説が行われている。 ・周囲には、擦文遺跡等が見学できる遺跡の森散策路が整備されている。 ・有料ガイドはなし。必要に応じて職員が対応している。

	（ところ遺跡の館、ところ埋蔵文化財センター、東京大学文学部常呂資料陳列館） ・開館時間：9:00～17:00 ・休館日：月曜日・祝日の翌日、12 月 29 日～翌年 1 月 5 日 ・入館料 ところ遺跡の館：一般 280 円、高校・大学生 160 円、小中学生・70 才以上無料 ところ埋蔵文化財センター、東京大学文学部常呂資料陳列館：無料
体験プログラム	遺跡の森体験学習事業として、次の事業を行っている（利用者数は H29年度） ① 土器づくり 随時受付（要予約） 2団体 47 名 ② 勾玉作り 随時受付（要予約） 4団体 70 名 ③ レクチャー 随時受付（要予約） 47 団体 1,494 名 ④ 遺跡発掘体験 10 名 ⑤ 講演会 17 名 ⑥ 講演依頼対応 4 件 （中学生、高齢者を対象にした講演―出前講座）
多言語対応	英語版のパンフレットを作成している。
利用状況	過去3年間の利用者の動向は次の通りで、近年、各館とも利用者は減少している。

	平成 27 年度		平成28年度		平成29年度	
	利用総数（人）	前年比（%）	利用総数（人）	前年比（%）	利用総数（人）	前年比（%）
ところ埋蔵文化財センター	2,473	90	2,292	93	1,987	87
ところ遺跡の館	3,646	108	3,295	90	3,208	97

・利用者内訳に関するデータは特に調査していない。

PR、誘客の方法	北見市HP、パンフレット
交通アクセス等	・網走バスターミナルより網走バス（常呂行）、北見バスターミナルより北見バス（常呂行）にて終点・北見市交通ターミナル（旧・常呂バスターミナル）まで行き、北見市営バスに乗り換え栄浦バス停下車。

観光コンテンツとしての可能性、課題：

・この地域の魅力は、オホーツクの自然と歴史文化が一体となって存在するところにある。オホーツク海、サロマ湖など優れた自然を背景に展開された何千年にもわたる人々の営みに思いを馳せ、当時の生活文化を学び、感じてもらう観光の展開が期待される。

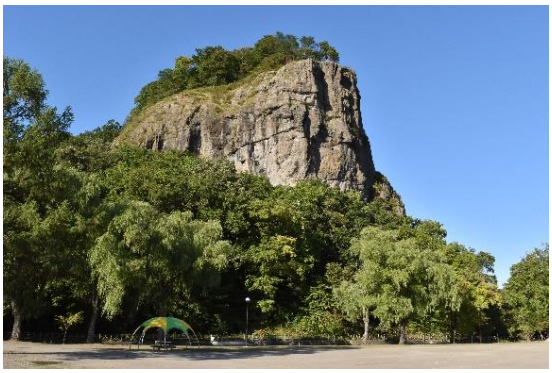
・アイヌ文化に関しては、縄文、続縄文、擦文、オホーツク、アイヌという歴史区分の中で、アイヌ文化の位置づけ、今日のアイヌの人たちの姿を伝えることがこの資源の役割と考えられる。

・本遺跡は、まさにフィールドミュージアムとして見るべきところは非常に多く、様々な歴史文化素材がある。この施設の価値を引き出すためには、歴史を楽しく知らせる人、インタープリターの存在が重要である。今後、専門のガイド、ボランティアガイド育成に向けた積極的な取り組みが必要である。

広域周遊、広域連携に向けた可能性、課題：

・近年、オホーツク文化が注目され、多くの人にその存在が知られるようになった。そのオホーツク文化遺跡はオホーツク沿岸の網走市や羅臼町、紋別市、枝幸町など各地域に残っているが、相互の連携はまだまだ不十分といわれる。今後、関連施設のネットワークづくりを進め、観光ルートしての連携や広報面での連携を図ることが望まれる。

伝承地域名	アイヌ文化に関する文化財/資源の名称	文化財/資源の種別
遠軽町	名勝インカルシ(瞰望岩)	場所/名勝ピリカノカ



瞰望岩

解説板

資源の概要	インカルシ(瞰望岩)は遠軽市街地の中にそびえる高さ 78m の大きな岩で、かつてはアイヌ民族の古戦場や神祭の場だったとされ、2011年に国が指定するアイヌ文化ゆかりの景勝地・ピリカノカに選ばれた。インカルシとは、アイヌ語で「いつも・眺める・ところ」という意味があり、町名の遠軽の語源になっている。
+文化財/資源の提供の方法、利用形態	・遠軽町白滝地域には「遠軽町埋蔵文化財センター」があり、主に旧石器時代の地域の歴史などが展示されている。アイヌ文化関連資料については、丸瀬布地域の丸瀬布郷土資料館に展示・収蔵されている。 ・瞰望岩を見上げる遠軽公園には、写真のような解説版が設置されている。
体験プログラム	なし
多言語対応	なし
利用状況	統計なし
PR、誘客の方法	遠軽町HP、パンフレット
交通アクセス	遠軽駅より 500m(瞰望岩下まで)

観光コンテンツとしての可能性、課題:

・遠軽町に伝わる以下の2つエピソードなどを活用して、観光コンテンツとしての新たな地域の魅力をつくりあげることが考えられる。

●インカルシの戦い伝説

遠軽町制作のウェブサイト「えんがる歴史物語」の中に、以下のようなインカルシの戦いの記述がある。

チトカニウシ(白滝の山)の山脈を境に北見国は、湧別アイヌの狩猟区になっており、湧別川をさかのぼるマスや鮭の群れ、鹿などの獣も豊富で長い間、平和な生活を営んでいました。
しかし、ある時十勝アイヌの群れが上川を経て、湧別アイヌの猟区権を犯し、談判したが聞き入れず、暴威をふるってなおも進もうとしたためチトカニウシの山を境に合戦が起こりました。
湧別アイヌは防御に努めましたが、強く狂暴な十勝アイヌに追い立てられ後退を余儀なくされ、各地から援軍を得てセタニウシ山で逆襲を企てましたが予期に反するほどの死傷者を出し、山を捨てることになりました。
後退を続けた最後の砦、インガルシ(瞰望岩)を拠点にて必死に防戦に努めましたが、出ては攻め、敵を追い落としの激戦が続けられ勝敗はいつ果てるともわからない戦いを続けました。勝ち誇っていた十勝アイヌは、一挙に湧別アイヌを全滅しようとしてある夜暴雨をついて進みました。
そして、両軍最後の血戦がまさに行われようとしたとき、夜半にわかに湧別川は氾濫大洪水となって十勝アイヌを飲み込みました。溺れ死ぬ者は数知れず、生き残った者も討たれ、あるいは捕らえられました。
雨の晴れ渡る頃、湧別アイヌ側に勝利の喚声がどっと上がりました。湧別アイヌもまた、生き残った者は少数でしたが、十勝アイヌを退けることができたのでした。

●秋葉實氏のエピソード

・近代に入ってからのアイヌに関するエピソードとして、松浦武四郎研究の第一人者である丸瀬布の故秋葉實氏が経験した心温まる以下のエピソードが紹介されている。この資料から、明治時代のこの地域のコタンの様子や旭川アイヌとの関係性が理解される。

Ⅱ-2 秋葉實の原点～太田トリワ夫妻との出会い

松浦武四郎研究の第一人者として知られ、丸瀬布の郷土史の保存運動に奔走した秋葉實の原点は、幼少期のアイヌの夫妻との出会いにあったといいます。

昭和 9 年（1934）、北見国遠軽村字ムリイ（現・遠軽町丸瀬布武利）の秋葉長治宅。十人家族の三男坊だった實少年は、当時、武利小学校 1 年生でした。この年、1 月 20 日から降り出した雪が、24 日には 7 尺（約 212 cm）にも達し、20 年ぶりの大雪となりました。300 人余りいた北海道庁直営の造材事業の作業員は次々と下山しましたが、食料の物資運搬を請け負っていた長治宅には、4 人程が身を寄せていました。

夕方 6 時頃、吹きすさぶ吹雪の音の合間に、「ヒューッヒューッ」と甲高い音が外から聞こえてきました。人の声にように聞こえたものの、窓の外は雪で埋もれて見えません。玄関の戸を何かが打つ音が聞こえ、母の言いつけで恐る恐る玄関を開けた實少年の前に、黒い塊が転がり込んできました。

「お助けください」「お助けください」という声ともに、玄関口に手をついて「物置か厠（トイレ）の片隅でもよいですから、どうか一晩泊めてください」とのこと。両親がひとまず部屋に上げて話を聞いたところ、夫婦で旭川から冬山に働きに来ていて、この雪で下山したものの途中から歩行困難に。灯を求めて 2、3 件の農家に宿泊を頼んだが、アイヌと知るや中へ入れてくれなかったと言います。夕食のあと、作業員の人たちと共に座敷へ寝床を設けたものの、夫婦は怯み続け、止む無く板敷の茶の間に布団を敷き、そこへ寝てもらいました。それが太田トリワ夫妻との出会いでした。

翌朝になると、トリワさんがオンコ（イチイ）の木で、鎖の飾りがついた一尺（約 30 cm）もある菜箸を作り上げ、お礼にと手渡してくれました。實少年は糊もないのにどうやって木の鎖ができたのか不思議でたまらず、マキリ（小刀）一丁で木の棒から美しい細工を施すトリワさんの手元を 2、3 時間も見続けました。

住民総出の除雪が終わり、トリワ夫妻がようやく帰路につけるようになった 29 日頃には、文様を彫った鎖付き菜箸十膳ほどのほか、同じく鎖をあしらい美しい彫刻が施された衣紋掛け 5 飾ほどが拵えられ、儀式のように祖父と父の前へ進呈してくれたのでした。この時の出会いが、ムリイに故地（ふるさと）を持つアイヌの人たちとの交流の原点となったのでした。

Ⅱ-4 旭川のアイヌの人たちとの交流 ～ユウベツアイヌの文化を受け継ぐ

昭和 39 年（1964）、一昨年の開拓古老座談会をきっかけに、アイヌの人たちは開拓の恩人だったことを知った實は、かつて丸瀬布に住んでいたアイヌを訪ねて旭川へと向かいました。旭川市博物館職員の協力で、川村熊吉さんの親類にある荒井源次郎さん、清水キクエさんと出会うことができました。この時、荒井さん一族の遠い祖先はユウベツの人で、ムリイカムイコタン（丸瀬布上武利の神居滝付近）が本拠地であったことを聞きます。そして、年代も事由も不明ながら、コタン（集落）ぐるみで宗谷を回り、石狩川をさかのぼってキムクシベツ（当麻町）を第二の故郷としていたが、明治中頃にもともと住んでいた上川アイヌの人たちとともに近文に集結させられた、とその経緯をうかがい知ったのでした。荒井さんたちはその後も故地ユウベツへ、ルベシベ（北見峠）やピンネシリ（武利岳）、マツネシリ（武華岳）の鞍部を越えて自由に往来していたことも話してくれました。

この訪問をきっかけとして、昭和 40 年（1965）7 月、荒井源次郎さん夫妻と義母シャヌレさんが 50 年ぶりに丸瀬布を訪れました。その後もムリイコタンに縁のある旭川のアイヌの人たちと共に丸瀬布を訪れ、毎年 7 月 28 日には山彦の滝でカムイノミ（神様へのお祈りの儀式）が行われたのでした。

昭和 42 年（1967）、「わたくし旭川のまみやベラモンゴと申します。」と、突然見知らぬ女性からの電話を受けた實は、その女性が、幼少期に両親が猛吹雪の夜に自宅に招き入れた太田トリワ夫妻の養女だったことを聞いたのでした。養い親が世話になったお礼にと、丸瀬布を訪れたベラモンゴさんとその後も交流を続けた實は、先祖から口承したというユウカラ（叙事詩）二編とウエペケレ（昔話し）四編、イオマンテ・カムイノミ（熊送りの祝詞）三編を受け取りました。その出来事に夢かとばかりに驚き、喜びました。

その後も荒井シャヌレさんをはじめ、昔ユウベツで暮らしたことのある人たちと交流を続け、ユウベツウポポ（里謡）やリムセ（踊り）も伝承されました。ユウベツを故地とする旭川のアイヌの人たちから「ユウベツ（アイヌ）文化の宝」を与えられた、と感じた實は、その文化を守り、伝えていくことを誓ったのでした。

（資料）遠軽町埋蔵文化センター第 2 回企画展 「松浦武四郎『由宇辺都誌』を辿る旅展」パネルより
（参考文献　秋葉實『上川紀行』より）

・遠軽町の白滝地区は国内最大規模の黒曜石原産地であり、そこで発見された遺跡群は、旧石器時代の石器製作遺跡として注目され、2010 年に日本ジオパークネットワークへの加盟が認定された。ジオパークとアイヌ文化との直接的な関連はないが、この地域の1万年にもわたる歴史とアイヌの歴史、そして開拓の歴史をつなげることにより、アイヌ文化の観光コンテンツとしての魅力を高めていく可能性がある。

広域周遊、広域連携に向けた課題：

・歴史的に見ると、この地のアイヌ民族と旭川のアイヌ民族とのつながりが深いといえる。このような歴史的な背景を踏まえ、各地のアイヌ文化を大きなストーリーとしてつなげていくことが必要と考えられる。

（４）伝承地域の状況のまとめ

各地のヒアリング調査から、道内の伝承地域全般の課題等を以下にまとめた。

●　アイヌ文化継承者の育成

アイヌ古式舞踊や伝統工芸、刺繍等の手仕事など、アイヌ文化を継承する方々が高齢化し、後継者育成が緊急で重要な課題となっている。各伝承地域では、アイヌ生活文化展や儀式のイベントが、古式舞踊等の継承文化を披露する機会となっている。これらは継承活動の発表の場として、伝承されている方々のモチベーション維持にも重要と考えられる。

また、食文化を提供する場所や施設が極めて少ないことも大きな課題である。

●　アイヌ文化の発信、受入れに対応する行政機関の連携強化

アイヌ文化に関する行政窓口は複数にまたがり、古式舞踊やチャシ跡等の文化財は教育委員会の管轄となり、アイヌの方々の相談窓口や活動施設となる生活館等は保健福祉関係の部署、観光については商工観光の担当部署となる。アイヌ文化資源を地域外へ発信し、一定量の旅行者等を受入れ、対応していくためには、各部署や観光協会等の関係機関の連携が重要となる。関係部署機関の連携強化、あるいはアイヌ文化対応窓口の一本化等の検討が求められる。

●　アイヌ文化を伝える方法、ツールの検討

アイヌ文化の古式舞踊やムックリ演奏等の芸能文化は、解説や説明がなくとも理解し楽しめる要素があるが、出土品や衣類等の伝承品、また、チャシ跡や遺跡、伝承地は、知識や説明がないと一見しただけでは、理解できないこともある。解説や説明に関するサービスや整備状況は、各地で様々だが、一定の知識や理解を前提とした文化資源については、ガイドによる説明、アプリによる解説ツール等を活用、またアニメ化や紙芝居など、理解しやすくするため対応が必要となる。

●　多言語対応

外国人旅行者、特に欧米の旅行者は、アイヌ文化への関心が高く、二次交通の不便な地域であっても、バス路線を乗り継いで来訪する例があった。多言語対応は各地で異なるが、博物館や資料館での展示では英語表記やスマホを使った音声ガイドのツールを導入しているところもみられた。今後の看板整備では、英語併記が望ましい。

●　ストーリーで伝承地を周遊

アイヌ文化は、北海道の自然と密接に結びついている。サケの遡上や特別天然記念物であるタンチョウやオジロワシの飛来など、伝承地域には魅力的な自然資源があり、地域によってはカヌー等のアクティビティも実施されている。既存の観光資源を、ストーリーで結ぶ付けて新たな周遊ルートづくりが今後期待される（カヌーでのチャシ跡巡り等）。